

経営支援 NPO クラブ  
20 周年記念誌

「皆様への感謝!」と  
「NPOクラブの更なる発展のために!」

20年の歩み



認定特定非営利活動法人

経営支援NPOクラブ

## 20年の歩み

### 目< Contents >次

ごあいさつ 『20年の歩み』発刊にあたって	3
<b>01 Timeline ~歩み</b> <b>NPO クラブ 20年の歩み</b>	4
<b>02 Special ~創立 20 周年記念 特別座談会</b> <b>歴代理事長と振り返る「NPO クラブ」</b>	8
<b>03 Beginning ~草創期</b> <b>NPO クラブ 創業の頃</b> シニアパワーの活用と生きがい創出を目指して	12
<b>04 Flying ~飛翔</b> <b>NPO クラブ 始動</b> 最初の仕事は鹿沼商工会議所から始まった!	16
<b>05 Dynamic ~躍動</b> <b>NPO パワー炸裂! 拡がる経営支援</b> 創立 10 周年以降の主な出来事	18
<b>06 Thanks! ~感謝</b> <b>関係者の皆様と NPO クラブとの強い絆</b> 多くの素敵な出会いに感謝!	24
<b>07 Future ~未来</b> <b>これからの NPO クラブ</b> 更なる発展に向けて	34
NPO クラブの刊行物&情報発信	38

## ごあいさつ

### 『20年の歩み』発刊にあたって



認定特定非営利活動法人 経営支援 NPO クラブ  
理事長 助川 英治

経営支援 NPO クラブは 2002（平成 14）年に三井物産副社長だった大貫義昭氏（初代理事長）が仲間 20 人と立ち上げた NPO 組織で、本年 10 月に 20 周年を迎えることができました。現在、会員数は 240 名超となり、受託案件数も 30 件を超えるようになりました。これも偏に官公庁、地方自治体、公益法人、中小企業団体中央会、商工会議所、金融機関、企業等の事業委託元様のご指導、ご支援によるものと深く感謝申し上げます。また、賛助会員、特定支援会員の皆様のご支援、ご協力に感謝するとともに会員の支援活動に対する真摯な取り組みに感謝申し上げます。

経営支援 NPO クラブは、永年企業等で培った知識・経験を活かして、ボランティア精神で中小企業・地方企業の経営支援のお手伝いなどを行うことで、シニアの活用と生きがいの創出に寄与し、同時に自由な活動を尊重し、自己活性化に繋ぐことを目論む同志の集まりです。活動内容は社会貢献活動で、中小企業に対する経営支援、教育機関等への講師派遣等を通じた次世代育成支援、自然大災害復興支援などの活動を行っています。

今回、創立 20 周年の節目として、『お世話になった皆様への感謝!』と『更なる発展のために!』をテーマに、記念誌を発刊することになりました。

20 年の歩み、創立時の話、この 20 年間の主な出来事、お世話になった方々のお話、これからの NPO クラブの紹介と、皆様のご協力を得まして何とかまとめることができました。貴重な過去の記録をまとめて、整理することは大変な作業でしたが、井料敏和副理事長を中心に多くの皆様のご協力で、節目の年に経営支援 NPO クラブの財産として完成することができました。

本記念誌の発刊が、お世話になった皆様への感謝のご報告となり、さらにメンバーの活動の励みになるとともに、今後の新しいメンバーに対する新たな指針の参考になることを願っております。

経営支援 NPO クラブは、認定 NPO 法人として従来の支援活動を進める中で、中小企業支援活動内容の更なる充実を目指した自己研鑽による各種研究会・タスクチーム活動、中期活動方針重点課題への取り組み、組織の一層の活性化、新たな社会貢献活動の検討などを積極的に進めて、魅力ある組織として更なる発展に繋げていく所存です。

皆様の引き続いてのご指導・ご支援をお願い申し上げます。

# 01 Timeline ~歩み NPOクラブ 20年の歩み

※赤字はNPOクラブ・社会のトピックス

## 社会の出来事

Timeline ~歩み

## NPOクラブ年譜：2002（平成14）年～2022（令和4）年

## NPOクラブの活動



20周年記念式典

5月 第20回通常総会をリアルで開催  
10月 20周年記念事業イベント

2022  
(令和4年)

2月 北京冬季オリンピック  
2月 ロシアがウクライナに侵攻

6月 福島廃炉プロジェクト受託  
12月 認定NPO 更新5年間

2021  
(令和3年)

3月 東日本大震災10年  
7月 東京オリンピック開催

4月 新型コロナ対策として「会議は原則オンラインで実施」  
7月 オンラインの臨時総会にて5代目理事長に助川英治が就任

助川 英治

2020  
(令和2年)

4月 新型コロナ感染で東京を含む7都道府県に初の緊急事態宣言発出  
12月 米民主党バイデン大統領就任

4月 関西グループ事務所開設  
6月 「10年後のNPOを考える」会

2019  
(平成31年、令和元年)

5月 平成→令和へ元号代替わり  
10月 消費税8%→10%へ

5月 4代目理事長に山口浩利が就任  
11月 NPO事務所を6F→1Fに移転

山口 浩利

2018  
(平成30年)

6月 米朝初の首脳会談(シンガポール)  
10月 築地市場→豊洲へ移転

6月 ムルマガ通信第1号配信開始  
6月 平成29年度地域中核企業創出・支援事業を関東経産局他より受託

2017  
(平成29年)

7月 都議選にて「都民ファーストの会」大勝、小池ブームとなる  
10月 衆院選自民党大勝、民進党分裂

2016  
(平成28年)

7月 Google のG-Suite の情報共有化開始  
12月 東京都より認定NPOの資格(28生都管第1187号)を取得  
4月 熊本地震(M7.0)  
11月 米国共和党トランプ大統領選出



新型コロナウイルス感染爆発

2015  
(平成27年)

8月 NPOクラブ最大の大型案件KFIP(介護・福祉機器プロジェクト事業)を経済産業省より受託  
11月 「再生可能エネルギーフォーラム・土湯温泉 2015」福島にて参加者314名



東京オリンピック開催

6月 公職選挙法改正18歳以上選挙権  
12月 新国立競技場・隈研吾設計に決定



平成から令和へ



アメリカ同時多発テロ

4月 小泉第一次内閣(第87代)発足  
9月 アメリカ同時多発テロ発生

2001  
(平成13年)



大貫 義昭

5月 日韓共催FIFAワールドカップ(サッカー)開催

2002  
(平成14年)

6月 大貫義昭(初代理事長)が仲間20名とNPOクラブを設立

10月 東京都よりNPO法人として認証される

10月 北朝鮮拉致被害者5人一時帰国

4月 日経平均株価最安値7,607円  
12月 自衛隊イラク派遣

2003  
(平成15年)

5月 第1回定期総会開催、正会員67名(23社)、賛助会員21社参加

5月 マスコミ各紙に取り上げられ、200超の問い合わせがあり、80の団体と面談

8月 アテネオリンピック

2004  
(平成16年)

5月 鹿沼商工会議所、栃木県庁、日本商工会議所等再委託される  
6月 経営企画委員会発足

10月 新潟県中越地震(M6.8)

3月 愛知万博開催

2005  
(平成17年)

4月 東京商工会議所とOB人材マッチング事業サービス契約  
5月 経営戦略委員会にて7グループでの活動開始



愛知万博

1月 ライブドアショック

2006  
(平成18年)

3月 ニュースレター第1号発行

7月 新潟県中越沖地震(M6.8)

2007  
(平成19年)

3月 NPOクラブ中期3カ年経営計画



創立10周年記念事業

荻田 浩



福幸プロジェクト発足

4月 後期高齢者医療制度発足

2008  
(平成20年)

5月 2代目理事長に荻田浩が就任  
5月 特定支援会員制度発足

1月 米民主党オバマ大統領就任  
9月 民主党 政権交代実現 鳩山内閣(第93代)

2009  
(平成21年)

9月 KE会(環境・エネルギー)、IK(医療・介護)研究会等と研究会活動が活発化

6月 小惑星探査機「はやぶさ」帰還

2010  
(平成22年)

3月 大手町NSビルより現在の内神田TKビル6Fに事務所移転

3月 東日本大震災(M9.0) 東電福島原発事故発生

2011  
(平成23年)

4月 福幸プロジェクトを立ち上げ、東北復興支援に取り組む  
4月 「明日を考える会」による組織再編(A・B・C・Dグループ)

11月 戦後最高の円高75円

5月 東京スカイツリー完成

2012  
(平成24年)

5月 東北ハンズオン支援事業・首都圏販路開拓支援事業(TS)を受託  
10月 10周年記念事業 大手町サンケイプラザにて開催

11月 中国習近平主席就任

5月 長嶋茂雄、国民栄誉賞受賞

9月 2020年東京オリンピック開催決定

2013  
(平成25年)

6月 東京都より「仮認定特定非営利活動法人」として仮認定取得

3月 ロシアがクリミア占領

4月 消費税5%→8%へ

2014  
(平成26年)

5月 3代目理事長に世良正が就任  
5月 関西グループ発足、10月に6名でスタート



世良 正



東日本大震災



東京スカイツリー

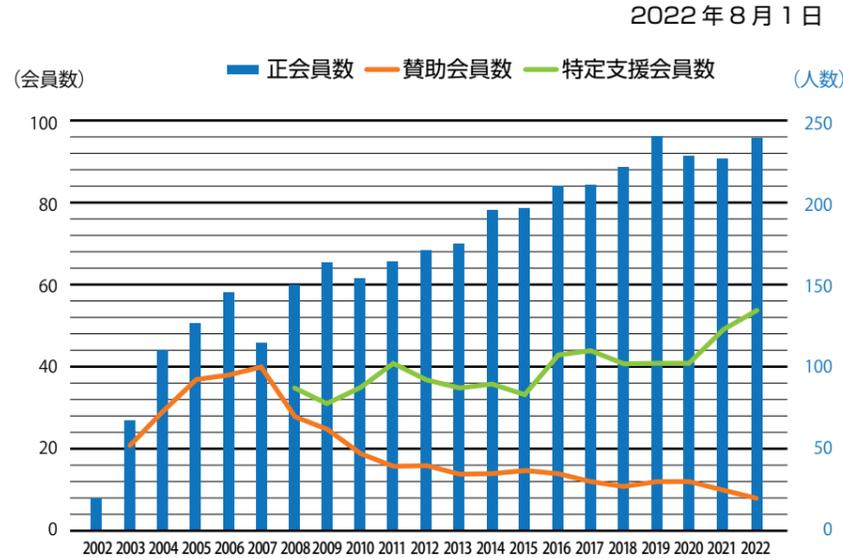
NPOクラブ データ：①会員数（正会員・賛助会員・特定支援会員）②正会員年齢分布

NPOクラブ データ：③支援会社数・回数・経常収入④歴代理事長・副理事長・事務局長等

会員数の推移

年 度	正会員数	賛助会員数	特定支援会員数
2002	20		
2003	67	21	
2004	110	29	
2005	127	37	
2006	145	38	
2007	151	40	
2008	150	28	35
2009	163	25	31
2010	153	19	35
2011	164	16	41
2012	171	16	37
2013	175	14	35
2014	195	14	36
2015	196	15	33
2016	210	14	43
2017	211	12	44
2018	221	11	41
2019	240	12	41
2020	228	12	41
2021	227	10	49
2022	240	8	54

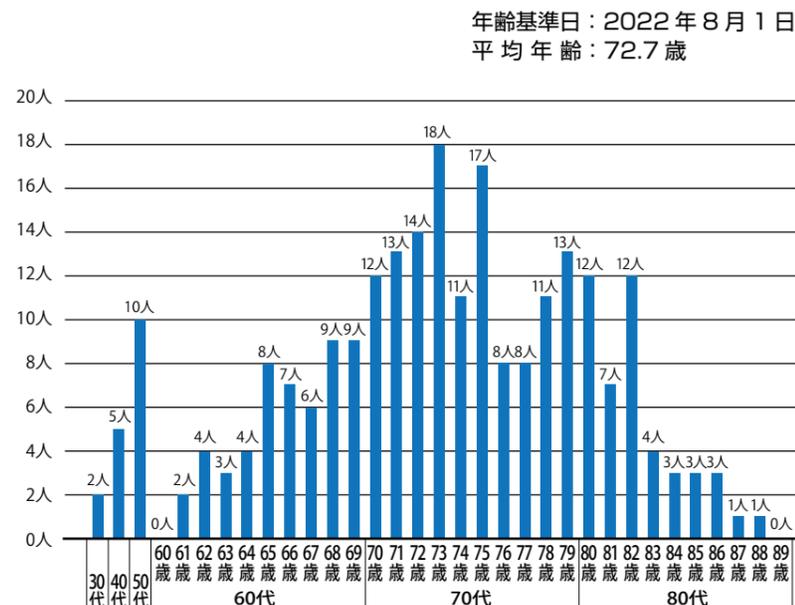
①会員数の推移（正会員・賛助会員・特定支援会員）グラフ



年齢別人数表

年代	年齢	小計	合計	割合
30代		2人	2人	0.8%
40代		5人	5人	2.1%
50代		10人	10人	4.2%
60代	60歳	0人	52人	21.7%
	61歳	2人		
	62歳	4人		
	63歳	3人		
	64歳	4人		
	65歳	8人		
	66歳	7人		
	67歳	6人		
	68歳	9人		
	69歳	9人		
70代	70歳	12人	125人	52.1%
	71歳	13人		
	72歳	14人		
	73歳	18人		
	74歳	11人		
	75歳	17人		
	76歳	8人		
	77歳	8人		
	78歳	11人		
	79歳	13人		
	80歳	12人		
80代	80歳	12人	46人	19.2%
	81歳	7人		
	82歳	12人		
	83歳	4人		
	84歳	3人		
	85歳	3人		
	86歳	3人		
	87歳	1人		
	88歳	1人		
89歳	0人			
総合計		240人	240人	100.0%

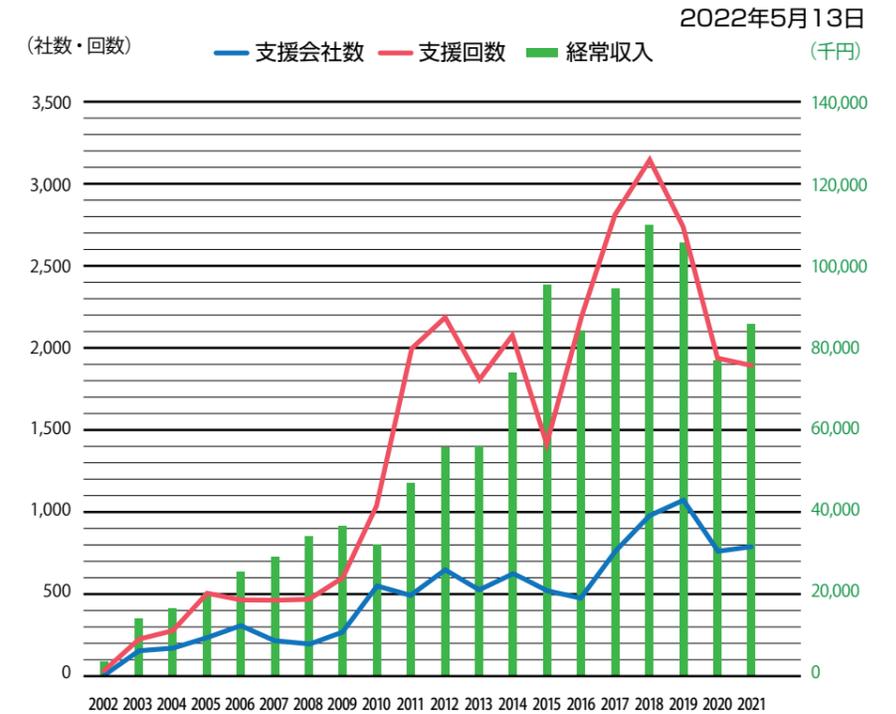
②経営支援NPOクラブ正会員年齢分布グラフ



支援会社数・回数・経常収入

年 度	支援会社数	支援回数	経常収入
2002	0	32	2,902
2003	145	213	13,622
2004	160	270	16,309
2005	220	500	20,364
2006	300	450	25,154
2007	205	463	28,697
2008	199	450	33,807
2009	260	586	36,330
2010	543	1,037	31,829
2011	497	1,992	47,038
2012	650	2,199	55,717
2013	522	1,801	55,810
2014	628	2,086	73,985
2015	516	1,403	95,576
2016	476	2,169	84,548
2017	745	2,812	94,769
2018	968	3,149	110,438
2019	1,066	2,750	105,791
2020	754	1,941	77,054
2021	797	1,896	86,175

③支援会社数・回数・経常収入グラフ



④歴代理事長・副理事長・事務局長等リスト

2022年8月1日

年月(総会開催)	理事長	副理事長	事務局長	企画委員長	業務推進委員長
2002年10月	大貫 義昭	戸田 久良、菊島 勝丸、清水 信行	福井 衛		
2003年 5月	//	//	//		
2004年 5月	//	青田 公男、安藤 正也、清水 信行、戸田 久良	高橋 秀明		
2005年 5月	//	戸田 久良→下村 尚久 (期中交代)	//	経営企画委員会	
2006年 5月	//	青田 公男、安藤 正也、清水 信行、下村 尚久、山口 浩利	河島 正典	3カ月ごと輪番制	山口 浩利
2007年 5月	//	下村 尚久、山口 浩利、友常 政春、柳 明宏、荻田 浩 (2008年2月より理事長代行)	//		小泉 護
2008年 5月	荻田 浩	山口 浩利、友常 政春	世良 正		//
2009年 5月	//	//	//		富田 駿
2010年 5月	//	山口 浩利、友常 政春、飯島 正三	//		//
2011年 5月	//	//	//	10月企画委員会再編	永井 隆二郎
2012年 5月	//	世良 正、菊地 省三、富田 駿、永井 隆二郎	//	菊地 省三	//
2013年 5月	//	世良 正、菊地 省三、富田 駿、永井 隆二郎、田島 宣夫	//	永井 隆二郎	//
2014年 5月	世良 正	永井 隆二郎、関口 清、柴田 勝	永井 隆二郎	//	柴田 勝
2015年 5月	//	//	//	関口 清	関口 清
2016年 5月	//	関口 清、柴田 勝、多田 泰夫	多田 泰夫	//	//
2017年 5月	//	//	//	//	//
2018年 5月	山口 浩利	宇野 一雄、助川 英治	//	助川 英治	林 正弘
2019年 5月	//	宇野 一雄、助川 英治、林 正弘 (2020年5月より)	//	//	//
2020年 7月	助川 英治	林 正弘、宮崎 清	萩原 一夫	林 正弘	宮崎 清
2021年 5月	//	//	酒井 基次(8月より)	//	//
2022年 5月	//	井料 敏和、近藤 芳輝、酒井 基次、松本 民男	酒井 基次	松本 民男	近藤 芳輝

# 02 Special ~創立20周年記念 特別座談会 歴代理事長と振り返る「NPOクラブ」



東京・千代田区の学士会館において、2022年5月26日(木)に開催した第20期通常総会に先立ち、経営支NPOクラブ創立20周年記念企画「歴代理事長 特別座談会」を開きました。ご参集いただいたのは、病気で療養中の大貫義昭初代理事長を除く、2~5代目理事長の皆さん。草創期の苦労や印象的な出来事、これからのNPOクラブに向けたメッセージなどを語っていただきました。

- 出席者** 2代目理事長 荻田 浩  
3代目理事長 世良 正  
4代目理事長 山口 浩利  
5代目理事長 助川 英治
- 司会進行** 斉藤 江美 (広報チーム)

## NPOクラブに入ったきっかけは？ いま明かす、歴代理事長それぞれの事情

—今回は経営支援NPOクラブの創立20周年企画として、歴代理事長による座談会の場を設けさせていただきました。さっそくですが、皆さんがNPOクラブに入会されたきっかけを教えてください。

**荻田** みんな同じだと思うけど、定年後「さて、これからどうするかな」ってなるんですよ。そのときに僕は、初代理事長の大貫義昭さんからお誘いを受けたのがきっかけです。

大貫さんと僕は同じ、三井物産の化学品部門出身。昔からよく存じあげていて、退職後も一緒に旅行する仲だった。その大貫さんが当時の三井物産の役員室の人たちと語らって、NPO



▲荻田2代目理事長

クラブを立ち上げるという。それで僕にも話がきたわけ。現役時代に合成樹脂の取引をしていて、販売先が中小企業だった。そうした経験も多少役立てるかなと思いました。**世良** 私のきっかけは、ほかならめ荻田さん。ある日電話が掛かってきて、「君、イタリアに顔が利くらしいな。どこでもいいから現地の商工会議所と、鹿沼商工会議所とのアポを取ってくれ」と言われて(笑)。

当時、私は三井物産を卒業して、ある中小企業の経営を任されていました。そこで扱っていた商品の主な輸出先がイタリア。一方、栃木県の鹿沼商工会議所はNPOクラブの大事なパートナーです。結果的にアポ取りは上手くいき、そのときに荻田さんから当NPOが素晴らしい組織だと聞きました。でも、しばらくはそのまま中小企業の経営に携わり、70歳前に入りました。

**山口** 私は三井造船でエンジニアリング事業部門の責任者をしていました。65歳で辞めたんだけど、その際、NPOクラブの創立メンバーの一人である菊島勝丸さんに「山ちゃん、辞めるんだったらNPOに来てよ」と誘われて。でも、「“経営支援”なんて偉そうな名前、嫌いだ」と、一度断ったんですよ(笑)。それに私は、地元で役立つ身近なNPOに入ろうと考えていたんです。だけど菊島さんに、「これから大きくなるから、組織・ルールづくりにぜひ力を貸してほしい」と口説かれて、渋々入りました(笑)。

当時、外部から委託された仕事がなくってね。用もないのに事務所に顔を出し難くて、「早くなんとかせなかん」と考えていました。

**助川** 私は味の素で医薬・健康食品の開発をしていたんで

すが、64歳で辞めて食品・医薬品のコンサルタント会社をつくりました。その頃、先輩の富長健治さんから「NPOクラブで医療・介護を研究するIK(医療・介護)研究会を立ち上げたんだけど、医療をわかる人がいないから入ってほしい」って言われてましてね。そのときは多忙だったから断ったんですが、コンサルの仕事などが落ち着いた3年後、再び富長さんから連絡をもらい入りました。

医薬の専門家がないみたいだから、内心、「好き勝手できるな」と期待していた(笑)。実際、すぐにいろんな業務を任せてもらって嬉しかったですね。—有難うございました。ところで話の中で出てきた「鹿沼商工会議所」ですが、どのような経緯で関係ができたのでしょうか？

**荻田** 最初、発足した頃は経済産業省の中小企業庁とか、官庁に行ったら仕事があると思ったんですよ。ところが、あまり相手にされなかった(笑)。それで途方に暮れたんだけど、やがて中小企業は各所在地の商工会議所に入っていることに気づいた。じゃあ、商工会議所へ行ってみようということになって、まず大貫さんの出身地である栃木県の鹿沼市を訪問したんです。

これがきっかけで木工の仕事を手伝うことになり、「NPOって、いろいろよくやってくれる」という口コミも広がって、仕事がバーツと来るようになった。—へえー、そうだったんですか。初期のご苦労ですと、NPOでも非常に少ない「認定NPO法人」の資格取得も大変だったのでは？

**荻田** それはもうちょっと後の話でしょ？  
**世良** 取ったのは2016(平成28)年の12月。  
**山口** そうそう、最近更新が終わったから(※「認定」の有効期間は5年間)。  
—「認定」の取得で苦労された理事長は？

**山口** 誰も苦労していない(笑)。  
**世良** “苦労してない理事長”は私です(一同笑)。  
**荻田** 萩原一夫さんとか、当時の事務局が一番苦労したよね。NPO法(特定非営利活動促進法)が施行されたのは1998(平成10)年だけど、そのときにやたらとNPOができたわけ。簡単にできちゃうから、いい加減なNPOなんかもあったりして、きちんと法整備をしようとして「認定NPO法」ができた。そんな時代でしたよ。  
—日本は欧米と比べてNPOのステイタスが低いと思います。それが残念で……。

**助川** 日本のNPO法人は5万法人、そのうち、「認定」を取得しているのは全国で2%ぐらいと少ない。我々の活躍で、日本のNPOに新しい風を吹き込めたらいいですね。

## 理事長をしてよかった！ 充実感・達成感を覚えた出来事、苦労話など

—2つ目の質問にいけます。皆さんが理事長をされていて充実感や達成感を覚えた出来事、あるいは苦労されたエ

ピソードなどをお聞かせください。  
**荻田** 苦労した点だと、僕はよく会員の皆さんに、自分のいた会社の話を支援先でしないように注意した。だって多くの人が味の素や三井造船、三井物産とか、上場企業出身でしょ。「三井物産だったらこうですね」なんてことを、つい言っちゃうんですよ。でも、中小企業の人からしたら「頭(ズ)が高い」って感じるわけ。最初、なかなかそれに気づかないんだよね。やっぱり長年大企業で働いてきたから。つい、昔のクセが出ちゃうというのはあったと思うんだけど。

**世良** 私は荻田さんと逆になりますけど、当NPOの一番の財産は“人”で、とにかく会員の皆さん、本当に素晴らしいんですね。崇高なボランティア精神はもちろん、能力も実績もある。それに加えてアクションが早い。ポンポン、ポンポン支援先のアポをとってくる実行力なんか、とても感心してしまいます。



▲世良3代目理事長

だから私は理事長のときに、中小企業の支援と日本の将来を担う若者の育成、この2つのラインさえ守っていれば大丈夫、上手くいくと思っていました。期待通り、皆さんの実力と行動力のおかげで質的・量的にも活動範囲が広がり、本当に幸せな理事長時代でした。

**山口** NPOクラブは企業と違って命令権も人事権もない組織で、活動はあくまで個人の自発的かつ良識に拠るところが大です。つまり、「己の欲するところに従えども矩(のり)を躰(こ)えず」が理想だけど、当然のことながらいろんな方がいらっしゃるんで、ある程度の規範なりガイドが必要になります。

私は「NPOクラブは“原点に帰ろう”」と思い、一旦引いた理事に振り返りをしました。「原点に帰る」の意味は、できるだけ多くの会員が何らかの社会貢献活動に参加して、それを通じて自己活性化をはかることですが、活動には大きく営利型と非営利型があり、人はそれぞれ前者、または後者のいずれかを得意とする人、いずれも苦にしない人、あるいはいずれも不得意な人とあります。

他方、NPOクラブはNPO組織では珍しく剰余金が固定費の数倍のレベルに達したので、非営利型の活動をより積極的に推進すべきとの考えです。

とは言えメンバーの間には、利益確保最優先の考えから、剰余金を有効に使うことの意義を優先させる考えまでさまざまありますが、皆でディスカッションし、双方のバランスをとってあげればいっけいわけです。

つい私は余計な口を出すから、そろそろ、そういう口出しをやめようかと。もう、82歳を過ぎました(笑)。

でも、いまや「人生100年時代」。80、90歳を過ぎても元気な人は、何らかの形でNPOクラブに関与すればい

い。(老害のそしりを受けながら)私は生涯NPO現役を続けたいですね(笑)。

**荻田** そういえば亡くなった会員の方って、この10年間で一人もいないよね。

**山口** まさに健康長生きは、素晴らしい!

**世良** 当NPOに入ると長生きできる。みんな心の優しい、元気な人たちがばかりだから(笑)。

**荻田** それとね、飲み会なんかあるでしょ。あれも大きいと思うよ。NPOクラブの会議はいつも14時や15時からだけど、あれは終わってからみんなで一杯飲んで、無理なく家に帰れるようにするため。飲み会は懇親の意味もあるし、リラックスできていいよね。僕なんかワイフに「NPOクラブに行く」と言ったら、「また飲みに行くの」って、いつも言い返される(一同笑)。

——話が飲み会に脱線してしまいました(大笑)。助川さん、達成感を覚えた出来事の思い出は?

**助川** 理事長になる前の話になるんだけど、経済産業省から「戦略分野コーディネータ事業」(戦略産業支援のための基盤整備事業)を委託されたことですね。その中の「医療機器、介護・福祉機器プロジェクト事業」(NPOクラブ呼称:「KFIP」<Kaigo-Fukushi Instruments Project>)に取り組みました。先ほど話したIK研究会の活動の一環です。

この事業は地域の中核企業や事業の育成を図り、雇用の確保・拡大など、地域経済の活性化を促進するものですが、医療機器、介護・福祉機器分野については経産省も産業の実態が掴めていなかった。それを我々が川上の中小企業や川下の大企業、また公設試験研究機関のシーズ・ニーズを調査し、その情報を冊子にまとめて報告したところ、経産省から高い評価を得たんです。これがきっかけになって、経産省や経済産業局とパイプができ、NPOクラブが世間的にも認知されるようになりました。

——NPOクラブの飛躍に繋がる出来事だったんですね。いま、KFIPに続く官庁関係の仕事は?

**助川** KFIPの実施期間は1年間でしたが、その後、中国経産局の依頼で岡山の福祉機器製造企業の育成支援を3年ほど行いました。また、介護・福祉機器の分野じゃないけど、現在NPOクラブで注力している「福島廃炉関連産業参入企業競争力強化支援事業」(NPOクラブ呼称:「廃炉プロジェクト」)も公益財団法人から委託された事業です。我々の地道な活動が評価されていると感じられて嬉しいです。

### 歴代理事長それぞれが思う、NPOクラブの印象的な出来事

——いま、助川さんからKFIPの話がありましたが、皆さんにとってのNPOクラブの印象的な出来事を教えてください。

**荻田** 僕は福島市の土湯温泉で開催したエネルギーフォーラム(再生可能エネルギーフォーラム・土湯温泉2015)。三井物産時代の部下が退社して、実家の土湯温泉の旅館を継

いだんだけど、東日本大震災で大変な思いをしていた。地震から3年ほど経っても客が戻らなくて、休業・廃業する旅館が相次ぐ状況だと。そんなとき、環境省の補助金を取得することができて、現地でフォーラムを開催したんです。

地元では「元気アップつちゆ」という会社が、温泉を利用した地熱発電や小水力発電などで復興に取り組んでいた。そこが運営するバイナリー発電を見学してもらってツアーも実施して、フォーラムは全国から福島に314人が集まる盛況振りでした。そうした縁もあって今回、NPOの20周年記念講演に元気アップつちゆの加藤勝一社長が登壇されるよね。このように、今も土湯温泉の方々と関係が続いているのが嬉しいです。

**世良** 私がよかったなと思う出来事の一つは、今の事務所に引っ越したことです。それまでは大光産業さんのご配慮で、事務所の一角を貸していただいていたんですが、狭かったし、やはり気兼ねがあった。でも、自分たちで事務所を持つとなると、家賃を払わなければならない。いささか儲けなければいけないんですね。それでも思い切って引っ越したら、さすが皆さんですね、頑張ってくれて、家賃はもちろん、さらに財務体制も充実させることができた。嬉しかったですね。

ほかにも、日本政策金融公庫から無担保、連帯保証人なしで1000万円の融資を受けることができて、当NPOをキャッシュフロー的にも安定させることができたこと。それと関西グループができた(※2014<平成26>年5月発足)ことも、忘れられない思い出です。

**荻田** 中小企業は意外に関西に多いんですよ。だから、関西につくるべきだと僕はかねがね思っていた。実際に関西グループが発足して、STEP(四国産業・技術振興センター)や九州にも仕事が増え、当NPOの仕事が全国展開になったでしょ。すごくよかったと思うよ。

**山口** 仕事の広がりだと、十数年前の話ですが私は関東経産局の産官学による複数のプロジェクトにNPOクラブの会員がトライアルとして、それぞれのチームにメンバーとして参加させてもらったときのことが印象に残っています。

NPOのメンバーの皆さんは、会議の時などに忌憚のない意見をはっきり言うんですよ。それが理路整然としていたかどうかは別にして、的を得た現実的な指摘は、ときには大学の先生方が「ノー」と言えない説得力があったりして、関東経産局の人たちが驚いちゃって(笑)。で、何が起きたかということ、このことが経産局内や地方の商工会議所に口伝えに拡がり、「NPOクラブの起用は面白いよ」となったのか、問い合わせが増えました。



▲山口4代目理事長

全国の自治体の間でも、会議でたまたま隣り合った方々の間での話題がきっかけとなり、中小企業支援の委託に繋がったケースも多々あります。

**世良** 関東経産局の拠点は、新潟から静岡まで1都10県にある。各地の商工会議所と関係が深いし、いろんな会合で当NPOが話題になったんでしょうね。

**荻田** さっきの鹿沼商工会議所の件もそうだけど、口コミで仕事が広がる面がすごく大きいと思います。

**山口** あと一つ、私が改めてNPO仲間の真摯な取り組み姿勢と実力に敬服したことがあります。実は『10年後のNPOを考えてみよう』というテーマで自由討論を提案しました。10年先の世界を想定し、そのときこのNPO組織が生き残っているためには、今、何を指向し備えるべきかと。各グループで適宜有志の人たちが仮題をたて、タスクチームをつくり、ディスカッションを始め、半年で10数回に及ぶミーティングを重ねた。過去の実績を整理・分析して、成果として今後実行に移す課題とチームを立ち上げた。これは年次計画の策定の一助に繋がりましたよね。

**助川** 今は「2021～2023(令和3～5)年度中期活動方針」を遂行中で、重点課題を32項目定めています。

**世良** 32項目の重点課題を読んでみると、本当に会員の皆さんが真剣に考え、練り上げたことがうかがえる。やっぱり勉強家が多いですね。



▲助川5代目理事長

### これからのNPOクラブへ、歴代理事長が贈る熱いエール!

——話が盛り上がりしてきたところですが、残念ながらお開きの時間が迫ってきました。最後に助川理事長には今後の抱負を、ほかの皆さんにはこれからのNPOクラブに対するメッセージをお願いします。

**助川** 先ほど話した通り、現中期活動方針では重点課題を32項目定めていて、少し広げ過ぎという意見もありますが、組織の見直し、事務局体制の強化など着実に進展しています。また、新しいマーケティングを行うことも、将来を見据えて最重要課題と捉えています。

従来、NPOクラブの支援内容は販路開拓一辺倒な面もありましたが、例えば付き合いの古いみやぎ産業振興機構との取り組みでは、現地企業の生産現場の改善とか、医療機器メーカーに対する業界動向の調査・評価支援、製品パンフレットの制作など広がりをみせています。ほかにも次世代育成支援の講演会・イベントと連携して、何か新しい仕事ができるかもしれない。皆さん、熱心に勉強しますからね。

今後NPOクラブが存続するために必要なスキル、

ノウハウを個人が身につけ、中期活動方針の諸課題を解決しつつ、我々の存在を世の中に知らしめていきたいですね。

**山口** 「不易流行」という言葉がありますよね。古くてもいいもの(本質的なもの)は残せ、新しいものには対応して(取り入れて)いくべし、と。この基本を守りながら、惜しみなく議論して、進化して行ってほしいですね。

最近の理事さんたちをみていて、「少し賢くなり過ぎたのかな?」と思うときがあります。なんというか、意見を戦わすことがないような……。やっぱりNPOクラブの会員は、疑問に思ったら「それはちょっと違うよ」と言わないといかんと。そして、みんなで議論を尽くして本筋を辿っていく。このようなNPOクラブの伝統を繋いでほしいですね。

**助川** そうですね。それは私も感じています。

**世良** 私もこの間、理事からの問題提起を話しました。いま理事会で議論するネタのほとんどが、企画委員会でまとめているんですね。本来は企画委員会が理事会の委託を受け、議事の内容を検討するものです。やはり理事になった以上、NPOクラブ全体を俯瞰し、必要な場面ではしっかり意見を言ってほしい。やはり、理事会が活性化しないと組織はダメになります。

**荻田** 僕はNPOクラブの理事長を3期やったのかな。会員の皆さん、常識的にきちんと鍛えられた人たちばかりで、羽目を外すわけでもない。だから、「任せておけば上手くいく」というのが僕の考えなんだ。ちょっと僕は、放任無責任な感じの理事長だったかもしれないけど(笑)。

自分の意見を伝える意識が足りないなら、その課題をぜひ克服して行ってほしい。皆さんがもっと自由に、意欲的にいろんな意見を出してやっていけば、さらに当NPOは発展していきますよ。そう信じています。

——今回は貴重なお話をいろいろ聞かせていただき、誠に有難うございました。皆さんの意見を今後の活動にぜひ活かして楽しいNPOクラブにしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

▶司会: 斉藤(広報チーム)



▲座談会では写真撮影時のみマスクを外しました

# 03

Beginning ~草創期

## NPOクラブ 創業の頃

### シニアパワーの活用と生きがい創出を目指して

経営支援 NPO クラブは 2002（平成 14）年 6 月、三井物産副社長だった大貫義昭氏が仲間 20 人と立ち上げた NPO 法人です。創業時のエピソードや様子がうかがえる新聞記事、関係者のコメントを紹介しましょう。

#### 創業時のエピソード <その 1>

#### わずか 20 人の仲間とスタート！

創業当時の日本経済はバブル崩壊を受けて、10 年もの長きにわたり低迷を続けていました。我が国が経済のダイナミズムを取り戻すには、企業の大半を占める中小企業の経営革新を図るとともに、第一線を退いた実務経験豊富な“人財”を活用して、新しい発想でビジネス展開する必要がある——。こうした考えのもと、大貫初代理事長たちは NPO クラブを立ち上げたのです。



▲創業当時



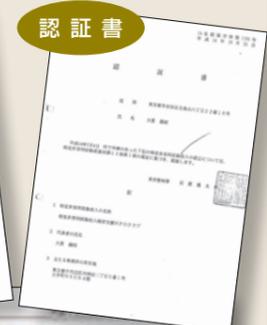
#### 設立主旨

中小企業・地方企業の経営支援のお手伝いをし、シニアパワーの活用と生きがいの創出に寄与する！

#### 設立主旨書



#### 認証書



▲大貫初代理事長



NPO クラブ 紹介記事①



▲三友新聞 (2003.2.6)

#### 追想

#### 創業の頃

古い手帳の 2002（平成 14）年 5 月 10 日の欄に会食予定として、『飲食店で 18:00 ～、メンバーは大貫氏、柳氏』とありました。虎ノ門にあった銘酒と同じ名前の飲食店……。間違いなく、この席で大貫さんから NPO クラブの創業メンバーとしてお誘いを受け、快諾した記憶があります。大貫さんや柳さんとは、現役（三井物産）時代のビジネスで嫌な思い出はまったくない関係でした。

あれから 20 年、誠に長い年月ですが、よくぞ継続したものと感無量です。

NPO 活動については、現役最後に担当していた住友デュレズ（米国オキシデンタルケミカルと住友ベークライトの合併会社）の社長時代に、「米国市民は会社退職後に NPO 活動に余生を捧げる市民が多い」といった話を聞いていたので関心がありました。

皆さんもご存じと思いますが、日本で NPO 法が施行されたのは 1998（平成 10）年 12 月のことです。ですから、我々の法人がいかに早い創業だったか、おわかりいただけると思います。大貫さんの慧眼に今さらながら驚き、敬服する次第です。

発足までの準備作業は、ほとんど三井物産出

設立発起人の一人 青田 公男



身の皆さんが担当され、事務所を大光産業の加藤社長様のご厚意で、同社内神田事務所の一角を拝借し、2002 年 6 月に創業となり、10 月に東京都より NPO 法人に認証されました。加藤社長様のご支援に心から感謝いたします。

スタート時は、民間からの案件が多数来るとの希望的観測もありましたが、現実はその逆でした。ここでも大貫理事長が先頭に立ち、霞が関や東京都庁などに足を運び、官需の獲得に奔走されました。さらには、我が NPO クラブを対外的にもっと PR しようと現役時代のルートを活用され、日本経済新聞の夕刊に記事を書いていただきました。2003（平成 15）年 2 月 6 日付の日経夕刊、『中小企業を支援、大企業 OB 奮起』（下の「NPO クラブ 紹介記事②」左下記事）というタイトルの記事です。

誠に残念ながら大貫さんは 2008（平成 20）年 2 月に病に倒れられ、現在も療養中と奥さまから伺っています。心から安寧な日々を祈るものです。

八十路越えの会員が、創業時の記憶を辿って



▲日本経済新聞 夕刊 (2003.2.6)



▲日経ビジネス (2012.9.10)

創業時のエピソード <その2>

当初、事務所は無償で間借りしていた?!



▲最初の活動拠点・大手町 NSビル

NPOクラブの活動は、内神田2丁目の大手町NSビル4階にあった大光産業の事務所の一角を間借りしてスタート。設立間もないため、当然まだ売上はなく、当時の同社社長・加藤俊夫氏のご厚意により、無償で間借りさせていただきました。

Check! 草創期メンバーのお二人



青田 公男さん



伊藤 佳子さん

写真左は創立メンバーの一人・青田公男さん。右は発足翌年に事務局員となり、現在も活躍されている伊藤佳子さん。二人ともお若い!

NPOクラブ設立に関与できたことを自負

大光産業株式会社 元社長 加藤 俊夫



設立20周年、おめでとうございます。20年前、貴クラブが設立・スタートしたときのことをお話ししましょう。

私は今年88歳になりました。貴クラブの初代理事長の大貫義昭さんは86歳になられたと思います。大貫さんとおつき合いは、同氏が三井物産の化学品部長を務められていた時代まで遡ります。大貫さんは副社長まで登り詰め、21年前の2001(平成13)年に三井物産を退職されました。

その年の秋口、私は大貫さんと二人だけで、東京日本橋のうなぎ割烹で会食をしました。その席で私は大貫さんに、(リタイア後)何かやる考えがあるのかをお尋ねしました。それに対して大貫さんは、「何かやらないかと誘う人は何人もいるが、資金を出そうという人はいない」とのこと。大貫さんの「やりたい」ことは、非営利団体の貴クラブの構想でした。

非営利事業に資金が集まらないのは当然だと、私は思いました。そこで、私の会社(大光産業)の社長室と応接室を提供することを大貫さんに申し出て、そこでスタートするよう提案したのです。

当時の住所は「千代田区内神田2-5-1 大手町NSビル4階」。現在の貴クラブ事務所から通りをはさんで、徒歩2~3分のところでした。

貴クラブとは、設立時の2002(平成14)年6月から2010(平成22)年3月までの約8年間、同じフロアで仕事を共にし、移転された3月に私も75歳になったので、会社の事務所を自宅の長野県の軽井沢に移転しました。

このような経緯から、私は会員でないにもかかわらず初代理事長の大貫さん、2代目理事長の荻田浩さんをはじめ、設立時の理事の方々と現在もご交誼をいただいております。貴クラブの設立に関与できたことと自負しています。

デジタル化が進む中、貴クラブの社会的役割がさらに増してくると思います。これからの益々の発展と、会員皆様のご健勝を念じております。

NPOクラブの事務所移転



NPOクラブが事務所を置く内神田TKビルの6階に移転したのは、2010(平成22)年3月のことでした。

それまでは創設以来、大光産業様のご厚意により、同社事務所の一角を無償で間借りして、肩身の狭い思いをしていました。



▲現在の活動拠点・内神田TKビル

それだけに、自分たちの立派な事務所が持てるまでにNPOクラブが成長したことが、いささか誇らしく、ま

3代目理事長 世良 正



た嬉しくも感じた次第です。

当時の収入に比し、移転費用、家賃等の負担増が大きく、はたして経費増に耐えられるか心配でしたが、会員の皆様のご尽力により、その後も継続して毎期黒字決算が確保できたことは二重の喜びでした。

その後も会員数の増加、また会員の皆様のご活躍によってNPOクラブの活動の範囲が拡がり、それに伴い6階の事務所が手狭になり、2018(平成30)年11月には広くて使い勝手のよい、同じビルの1階にある現在の事務所に再移転しました。

NPOクラブの思い出



2000(平成12)年に前職の三井物産を退職し、のんびりしようと思っていた頃、NPOクラブ創立者の大貫さんに頼まれて、2002(平成14)年、62歳の時に入会しました。

設立当初は20人くらいでしたので、上下関係もなく、和やかな雰囲気で行っていましたよ。会員数は、3年目くらいであっという間に100人ほどになり、皆さん、熱くてギラギラしていました(笑)。最初の仕事、鹿沼商工会議所のコンサルタント業務を契約したときは、みんなで喜んだものです。

設立時は新聞や雑誌にも取り上げられ、問い合わせが多くきました。そのうち、経産局・中小企業庁からも問い合わせがあり、官庁関係からの口コミも拡がって、徐々に信用が高まっていったと記憶しています。

初代事務局長 福井 衛



私自身、NPOクラブに長くはいませんでしたが、草創の頃は「早く3000万円くらいの安定的な売上を目指そう!」と頑張っていました。

今の会員の方々には、これからもぜひ働きがいというか、生きがいの場所として、楽しみながら活動していただきたいと願っています。

<取材ノート>

福井さんから、「今はどれくらいの売上なんですか?」という質問がありました。「コロナのちょっと前には、2年連続で1億円超えましたよ」とお答えしたら、驚かれていました。

記: NPOクラブ広報チーム

# 04

Flying ~飛翔

## NPOクラブ 始動

### 最初の仕事は鹿沼商工会議所から始まった!

「中小企業・地方企業の経営支援」を使命に誕生したNPOクラブ。しかし、最初の仕事を受託するまで苦難が続きました。そんな日々を終止符を打ち、飛躍のきっかけとなったのが、栃木県・鹿沼商工会議所から委託された現地企業の新事業開拓支援や、地場産業である家具・木工の認知度向上を目指す「匠の技再発見」の支援でした。



▲鹿沼市睦町に拠点を置く鹿沼商工会議所。地区内唯一の地域総合経済団体として、地域ビジネスを力強くサポートしている。



▲鹿沼商工会議所が発行する木工産業の紹介冊子『鹿沼の木工』。

※写真左は栃木県のHP、右は鹿沼商工会議所より。

### 鹿沼商工会議所の攻めの姿勢、欧州への販路開拓の足掛かりに

鹿沼商工会議所 専務理事 入江 史朗



このたびは創立20周年を迎えられ、誠にありがとうございます。この日を迎えることができましたことは、ひとえに助川英治理事長をはじめ、メンバーの皆様方の並々な御尽力の成果とお慶び申し上げます。

私ども鹿沼商工会議所は、設立当所からのお付き合いとなります。2002(平成14)年に、鹿沼市府所町出身の大貫義昭氏(初代理事長、元三井物産副社長)が鹿沼商工会議所にお見えになり、中小企業の支援を目的としたクラブを設立する旨のお話がきっかけになります。経営支援NPOクラブ設立後は、大貫理事長をはじめ、メンバーの皆様方には大変助けられました。

通常では面会できない有名企業の方々にお会いすることができる素晴らしいネットワーク、販路拡大や商品開発のアドバイスなどもいただきました。特に印象に残る事柄としては、イタリア・ミラノなどへの海外販路事業です。松島宏氏(元イタリア住友商事社長)の商社魂・語学力には大変助けられました。鹿沼商工会議所の攻めの姿勢、欧州への販路開拓の足掛かりになりました。

最後に、これからも経営支援NPOクラブ一丸となって更なる飛躍を遂げられることを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。今後も、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

### NPO インタビュー

### 家具デザイナー・小田原 健先生を訪ねて



小田原 健先生

NPOクラブが鹿沼商工会議所から最初に受託した事業は、前述の通り「新事業開拓」「匠の技再発見」。その際、家具デザイナー・小田原 健先生(一般社団法人ARTISAN 代表)に多大なご協力をいただきました。現在、御年88歳の小田原先生。麻布十番にある先生の事務所を訪ね、当時のお話を伺いました。

#### \*そもそも家具デザイナーになられたきっかけは？

少年時代、栃木県の自然豊かな環境で遊んでいました。私の玩具は、ナイフで切り出して作った釣り竿や野球のバット。ナイフとノコギリがあれば、なんでも作って楽しんでいました。

父からは設計図の書き方を、母からはデザインの教えを受けたことで、正しいものづくりが身についたのかと思います。

それから、レイモンド・ローウィの『口紅から機関車まで』という1冊の本に出会って感銘を受け、「昭和の左甚五郎」といわれた木工芸の名人・三輪磯松氏の工房に弟子入りしました。そこで技術の基礎と設計製図の自信をつけ、その後一流建築家の吉村順三先生(東京芸大名誉教授)に師事しました。

#### \*NPOクラブを通じて鹿沼商工会議所から話がきて、どう取り組みましたか？

私は日本の針葉樹を使うこと、特に杉の木を使うことにこだわりました。針葉樹の加工ができるのは、木の性質を知り、伝統的な技術を身につけている建具屋さんです。リフォームの仕事もいろいろ手掛けてきましたが、鹿沼では木工団地の技術者指導もやりました。

#### \*NPOクラブのメンバーと関わって、いかがでしたか？

とにかく経験豊富な人たちが多く。大貫さんや荻田さん、青田さん、それに土屋さんと、皆さん熱心でしたね。僕の世界にはいない人たちです。いつもワクワクしながら知恵を絞っていましたよ(笑)。

### 追想

### 鹿沼商工会議所と小田原先生との思い出

2代目理事長 荻田 浩



私と小田原 健先生の出会いは、私が三井物産に勤めていた頃にさかのぼります。

壁紙を扱っていた三井物産プラスチックに我が家の内装をお願いしたら、不手際があり(間違えてカーテンの長さが短かった)、私の家内がいろいろクレームを出しました。その対応で家内を納得させようと、三井物産プラスチックの担当者が同社顧問をされていた偉い先生である小田原先生を、我がマンションに連れてこられたのが始まりです。その時、私自身、小田原先生は面白い方だと思いました。

それから3年くらいが経ち、鹿沼商工会議所より、鹿沼の木工屋さんたちが当時マンション化の進む中、建具が先細りで、その対策として家具に挑戦するという相談を受けました。そこで、保管していた名刺で小田原先生にお電話したのが、鹿沼商工会議所とNPOクラブとしての付き合いの経緯です。

それから、鹿沼の伝統木工を活かすための具体的な提案や支援が始まりました。

# 05 NPOパワー炸裂！ 拡がる経営支援

Dynamic ~躍動

## 創立 10 周年以降の主な出来事

それまでの地道な支援活動が実を結び、創立 10 周年以降、NPO クラブの知名度は急速に高まっています。経済産業省による事業採択、福島復興支援など活躍の場は拡がり、クラブにおいても東京都の認定 NPO 法人資格の取得、関西グループの発足など大きな出来事がありました。

いま直面するコロナ禍も柔軟に対応し、力強く乗り越えようとする NPO クラブ。  
創立 10 周年以降の動きを振り返ります。

### Playback!

### 創立 10 周年記念事業 (2012 年 10 月)

10 周年の節目に初めて、大手町サンケイプラザで創立記念事業を開催しました。それまでの 10 年間、我々は地道な中小企業支援のマッチングと地方公共団体・財団への受託アプローチにほとんど終始していました。

記念事業の第一部は、JAXA の川口淳一郎教授による『はやぶさを支えた日本のテクノロジーと技術者魂』と題する特別記念講演会が行われ、続く第二部で懇親会（パーティー）が開催されました。

参加者の総計は 314 名で、うち外部出席者 227 名、内部会員 87 名でした。当日は初代の大貫理事長も参加され、和やかな雰囲気の中、成功裏に終わりました。

### 創立 10 周年 特別記念講演会 & パーティー

記念講演会

記念パーティー



### 創立 10 周年記念資料 (抜粋)



#### NPOクラブ “10年間の歩み”

2002年 6月：大貫義昭（初代理事長、三井物産OB）が仲間 18 名と語り、中小企業支援を目指した NPO クラブを創立  
10月：東京都より、NPO 法人として認証を得て設立  
認証番号：14 生都第 1104 号（2002 年 10 月 26 日）  
2004 年 12 月：正会員 9 3 名、出身企業 5 5 社、賛助会員企業数 3 8 社に達す。  
2008 年 6 月：二代目理事長に萩田浩（三井物産OB）が就任  
2009 年 3 月：現在の事務所へ移転。  
〔東京都千代田区内神田1-5-13内神田TKビル6階〕  
2012 年 8 月：正会員 1 6 1 名、出身企業 9 2 社、賛助会員企業数 1 7 社、特定支援会員企業数 3 9 社  
2012 年 10 月：設立 1 0 周年特別記念行事

#### 志の高い、探究心旺盛な知的集団



（千代田スポーツセンター玄関にて）

#### 業務推進委員会・風景 P10



・地域リーダーとグループリーダーからなる業務推進委員会での案件検討風景

#### 組織力を発揮 P9



個別案件の検討会議

#### この10年間で大きく成長を遂げました！



#### 審査会・商談会・展示会

各地で行われる案件審査会・企業勝致商談会・各種展示会の活動の一部を紹介します。



初期の賑わい活動の一端です

#### 八千代銀行の主催で大手企業を招致



2011年9月6日  
於：八千代銀行本店  
5社招致、中小企業 28社に対し、44回商談  
昨年度(2011年2月)に  
続いている支援活動

金融機関を通じての支援依頼が増加しています。

#### 大阪市から初めて支援事業を受託！！

（大阪市都市型産業振興センターより、大阪産業創造館個別マッチング事業を受託）



「新機軸材料展2012」  
（※：2/16～17、東京ビッグサイト）

#### 静岡県（浜松商工会議所）

#### 「第5回販路マッチング交流会2012」

【3/9(金)大田区産業プラザ】  
主催：三遠南信クラスター推進会議



出席： 11 社  
招致企業： 23 社

#### 海外支援も行いました



特定支援会員企業の取組で、中国に行き、支援を行いました（2010年4月）

#### ベンチャー企業も支援しています

#### 川崎市産業振興財団（KBIC支援2012年9月28日）



販路支援を超えて、ベンチャー企業の継続的な経営支援も行っています

NPO レポート 1

## NPOクラブの中小企業支援の雛形となったTS案件 ~2012(平成24)年5月

東日本大震災後の復興支援に取り組む中、NPOクラブは2012(平成24)年に東北地区信用金庫協会より「ビジネスマッチ東北ハンズオン支援事業」(以下TS案件)を受託し、4年間にわたり本支援事業を実施しました。

TS案件は東北経済産業局の助成からスタートしたもので、東日本大震災で被災した東北4県(青森、岩手、宮城、福島)の中小企業が扱う製品の首都圏市場への販路開拓支援が目的でした。さらに、東北地区の復興支援という大きな使命を担う事業でもありました。

NPOクラブは、本事業のこうした社会的意義を十分に認識した上で全組織・機能を投入して取り組み、

事業期間の4年間で93社の現地企業を支援、マッチング回数は447回に及びました。

TS案件は2015(平成27)年をもって一旦終了となりましたが、本業務を通してNPOクラブは東北地区の各関係機関、とりわけ東北地区信用金庫協会と深い信頼関係を構築することができました。

同協会とはその後も、2016(平成28)・2017(平成29)年の2年間、協会独自の地域活性化支援事業で協働して52社の企業を支援。2017年末には商談成約件数315件と、高い成果を挙げています。

TS案件はNPOクラブの中小企業支援の雛形となり、その後の活動に大いに貢献しています。



▲10周年記念資料で紹介されたTS案件の記事

記：NPOクラブ・多田 泰夫

NPO レポート 2

## 関西グループの設立と経緯・活動について ~2014(平成26)年5月

関西グループは、近畿以西地域の活動強化を目的に、2014(平成26)年5月に関西在住3名と、関西勤務経験者や関西出身者等の関西に人脈のある関東在住3名のメンバー(計6名)で、「関西チーム」として発足しました。

当初、毎月行う月例会議は、10名収容の会議室で始まりましたが、会員数の増加とともに20名、30名と徐々に貸会議室のサイズも大きくなり、ついに5年後の2019(平成31)年4月には、関西在住22名、関東在住3名の計25名(内女性会員3名)の組織となったため、活動をさらに活発化させようと関西グループ事務所を新大阪駅に近い、大阪メトロ西中島南方駅から徒歩2分の所に開設いたしました。

事務所開設以前より近畿経済産業局等からの受託事業はありましたが、活動拠点を設置したことが関西グ

ループの認知度・信頼度の向上につながり、香川県、和歌山県、尼崎市傘下の中小企業支援公益財団法人や、南都銀行、大阪府信用金庫協会等の金融機関から支援事業の受託、及びさまざまな中小企業からの個別支援活動を受ける等、活動の幅も広がりました。

その後、新会員も徐々に増え、2022(令和4)年8月末には石川県、福岡県からの参加も得て、関東在住者4名も含め総勢39名の組織となっています。

グループメンバーは、製薬・科学、鉄鋼、電機、農機、建機、機械、自動車機器、検査機器、商社及び金融等のOB及び現役にて、全分野の企業支援について、毎月最低1回の定例連絡会議を開催し、日々活動を推進しております。

今後もより一層の拡大・強化を図り、関西地区の強固な基盤の確立を目指します。



▲関西グループの活動拠点・ユヤマビル5F

▲関西グループのメンバー

記：関西グループリーダー・田畑 芳彦

NPO レポート 3

## NPOクラブ最大の受託案件 経産省・戦略分野コーディネータ事業への採択 ~2015(平成27)年8月

10周年パーティーを経て民間への認知度が急速に高まった中、2015(平成27)年度にNPOクラブは(一財)日本立地センターから、経済産業省の事業において北海道から九州まで金融機関が支援している中小企業の事業性についての評価とアドバイスを実施する大きな事業を受託しました。

中小企業の範疇は農業から、ものづくり、造船に至る非常に広い範囲でありましたが、NPOクラブの先輩による伝統から形成され、また広い産業分野を網羅する多くの優れた企業出身者の参加により、企業との密接な関係を基にした事業性評価、アドバイスがなされました。この結果、当初予定された以上の支援を実施することができ、これによりNPOクラブは経産省より中小企業支援で可能性を持つNPO団体であるとの評価を得ました。

経済産業省では地域をリードする中小企業群を育成するとして、自動車、航空機、エレクトロニクス、電子・電気、バイオ、再生医療、素材、医療・福祉の分野で、可能性ある企業の育成を目指したプロジェクトを計画し、NPOクラブは医療・福祉分野で受託することができました。

2009(平成21)年にIK研究会をスタートし、医療・介護関係での動向調査、参入企業調査(参入リストで

約600社)の蓄積がその受託のきっかけであったとはいえ、他の分野を受託した企業は国の事業の受託常連機関ばかりでした。対して当方は、ただその分野の状況や企業との関係を持っている小さな組織に過ぎず、なしとげられるかまったく先の見えない状況でした。

それでも関係各署の絶大な支援をいただき、当時の年間事業規模の半分以上の大きな事業を受託することができました。事業の目標は伸びる会社の抽出とその育成、福祉・介護事業での課題の抽出、川上企業に対する川下企業からの期待の抽出と支援などでありました。

NPOクラブは基本的に一般の企業とは異なり横社会で、企業のプロジェクトのように進められなく、11月にもなると、頭の中があふれだし、もう限界と思う状態が続きました。ところが、そこからNPOクラブの皆さんからのすばい支援が始まり、とても想像できない支援で1月の末には明確に到達点が見え、さらに次年度に対する構想が構築できるようになりました。

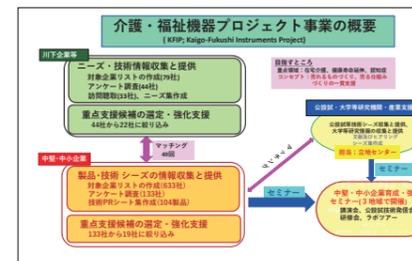
結果的にこの事業は3年間続く予定が1年で終了し、その後、地域経済産業局事業としての地域中核企業育成事業に2020(令和2)年まで引き継がれることになりました。そして、築かれた人脈により北海道、東北、関東、中国の各経産局事業における2016(平成28)

年以降の受託等に結びつくことができました。

NPOクラブの事業は実態に基づいた泥臭い支援が中心ですが、中小企業様には他でできない重要な支援であることを学んだ事業でありました。



記：NPOクラブ・柴田 勝



▲経産省・戦略分野コーディネータ事業 資料

なんといっても強調したいのは、このプロジェクトを委託されたことでNPOクラブが世間から認知されたことです。自動車・バイオ・エレクトロニクス・航空機・素材の各分野の受託機関は、いずれも立派な一般社団法人、一般財団法人、公益財団法人である。その中にあるNPOクラブである。おかげで大企業や大規模組織への訪問面談は比較的優遇を受けたと感じています。なかでも(株)ルネサンスの高崎 尚樹 前社長(故人、当時常務)との面談は忘れられないものでした。

×月×日、12時からの面談であった。約束の時間に訪問すると、いきなり「私は常務であり、あなたと会うのは私の仕事ではない。したがって、勤務時間ではない昼間に会うことにした」といわれ、丁寧にご対応いただいた。そして最後に、「今回戦略分野コーディネータ事業に採択されたことは大事にしてください。これで経産省と

つながりができ、信頼を得たのだから、今後(の飛躍)にも大いにつながるだろう」と話された。今振り返るとまさしく、この事業を契機にして経産省・地方経産局とのつながりが深まり、NPOクラブの飛躍の足掛かりとなりました。

それに対して、中小企業とのやりとりは大変でした。まず、当該事業は8月7日始動でした。その日からアンケートを出したが、ちょうどお盆休みに差しかかり、社長の机の上で眠ったままでした。このためアンケートの回収が捗らず、今度は催促の電話を何度も何度もかけました。その挙げ句の果てに、「このアンケートに答えなければ、何かお咎めでもありますか?」といわれ、愕然とした。

結局アンケートの回収率は20%強に止まり、「あれだけ努力したのにこんなものか」とガックリすると同時に、大企業と中小企業との差を思い知らされたことを覚えています。



記：NPOクラブ・富長 健治

NPO レポート 4

### 福島復興支援「再生可能エネルギー」フォーラム ～2015（平成27）年11月

2011（平成23）年の東日本大震災で福島は甚大な被害を受けました。その中で同年11月、福島県土湯温泉町は地域資源を活かし、小水力発電、バイナリー発電事業による「まちづくり」に取り組みました。いわば、再生エネルギーの地産地消による地方創生最前線地域です。

そこで環境省の補助金を利用して、日本の各地の関係者や市民が集い、地域ぐるみの復興再生の実践を考える「再生可能エネルギーフォーラム・土湯温泉2015」を、(株)元気アップつちゆ、NPO法人土湯温泉観光まちづくり協議会、当NPOクラブ（企画・実施担当）の共催で、2015（平成27）年11月5日～6

日（会場：福島テルサ、土湯温泉発電所現場）に開催しました。当日の参加者は、314名（内パネル展示22社参加、発電所見学160名）を数えました。

その後も、福幸プロジェクト活動が6年目に入ったことを機に、2017（平成29）年2月には「福島復興再生 福幸プロジェクト5周年記念セミナー」を東京都道府県会館にて開催しました。

このセミナーは「新しい東北官民連携協議会」・復興庁の支援のもと約120名の参加者があり、多くの方から、経営支援NPOクラブの活動に対して多大なる感謝の言葉をいただきました。



◀▲フォーラムのリーフレットと会場の様子



記：NPOクラブ・荻田 浩

NPO レポート 5

### 東京都より認定NPO法人の資格取得 ～2016（平成28）年12月

2012（平成24）年にNPO法が改正され、2013（平成25）年6月には東京都より「仮認定特定非営利活動法人」として仮認定を取得しました。

そして、2016（平成28）年には東京都より“認定特定非営利活動法人”として認可されました。さらに2021（令和3）年12月には更新の時期となり、5年間の認定NPO法人有効期間承認を得ました。

2022（令和4）年5月時点のNPOの数は全国で5万711法人あります。その中で認定NPOは約2%の1,246法人です。



▲東京都から届いた認定通知書



記：NPOクラブ・萩原 一夫

NPO レポート 6

### コロナ禍における活動の変化（Web活用等） ～2022（令和4）年8月

2020（令和2）年早々から世界を震撼させた新型コロナウイルスの感染拡大。NPOクラブでは、同年2月まで制限付きながらもなんとか活動を継続できましたが、やはり高齢者の集団であることを考え、3月に入ると定例会議など多人数での会合はすべて中止となりました。

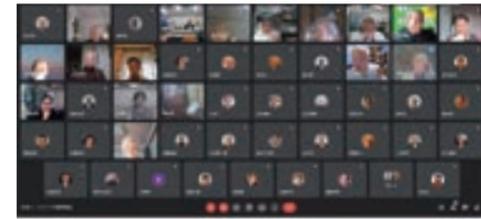
4月7日には東京都が緊急事態宣言を発出したことにより、NPOクラブの事務所も5月末まで閉鎖を余

儀なくされ、各グループの定例会等の開催も困難となりました。この事態を受け、今後、通常業務や会議、会員のコミュニケーションをどのようにとっていくか、NPOクラブ内で議論を重ねました。その結果、GoogleのWeb会議ツール「Google Meet」を導入することになり、NPOクラブ内のOAチームを中心に導入準備を進めました。

これまでWeb会議など行ったことのない会員がほとんどで、個人個人のITスキルにも差があり、かなり手間取る場面もありましたが、それでも3カ月ほどでなんと180名ぐらいが対応できるようになりました。短期間でこれだけの

人たちがWeb会議に参加できるようになり、改めて皆さんの高い潜在能力に感心しています。

同年9月になって事務所は週4日オープンするまで緩和されましたが、まだまだ活動の制約は大きく、特にマッチングや商談会・展示会への招致活動はまったくの手探りの状況が続きました。これらの業務で問題となるのがWeb会議ツールの選択で、各企業により使用ソフトが異なるため、これを一つにまとめなければなりません。しかし各社の事情で、特にセキュリティ上の問題からWeb会議ソフトの使用に制限があり、



▲Web開催した2021年総会の様子

Web会議システムを揃えることは思った以上で大変でした。

また、中小企業でWeb会議システムに不慣れな方々のために、Web会議システムのマニュアル（サービスの案内資料、会社案内等の事前準備やカメラ・マイクの

チェック、画面の共有操作、当日準備等）を作成し、Webマッチングに備えました。新型コロナがNPOクラブに与えた影響は中小企業の支援実績にも顕著に表れ、2020（令和2）年度のマッチング・企業招致件数は計1,941件、2021（令和3）年度は1,896件と、2019（令和元）年度と比較しても7割程度に減少しました。

まだ収束のみえない新型コロナにNPOクラブも翻弄されましたが、Web活用が進展するなど、世の中の新しい流れに対応するいい体験にもなりました。



記：NPOクラブ・谷 文彦

NPO レポート 7

### 販路が全国の県・市町村に拡大 ～2022（令和4）年8月

2002（平成14）年に20名でスタートしたNPOクラブも、1年後には会員数が約70名に増加し、収入は1,300万円ほど稼ぐ組織になりました。会員数については、さらに5年後には150名に達しました。

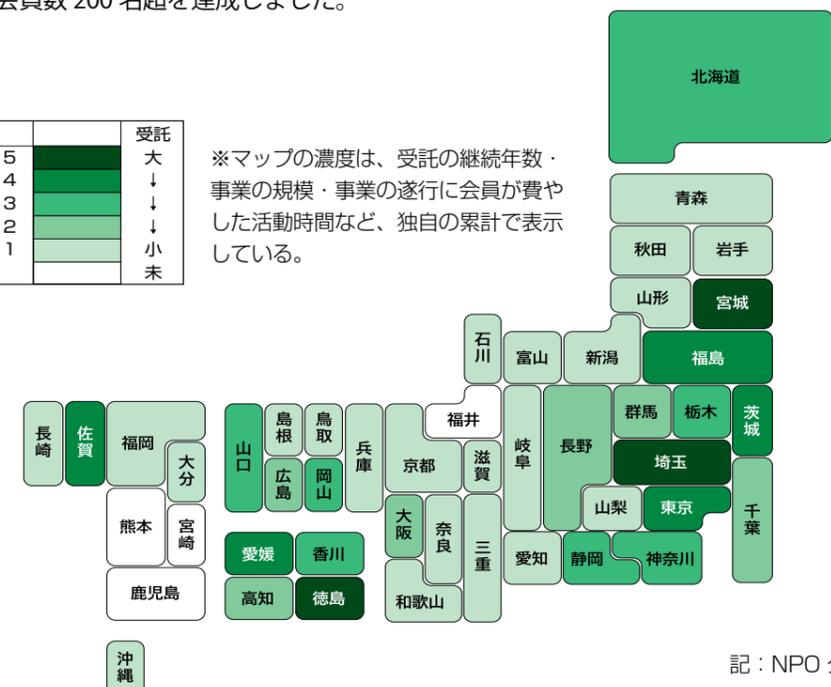
その後も順調に会員・収入は増えていきましたが、2011（平成23）年の東日本大震災で収入が落ち込んだ際は、クラブ内にピリピリした緊張感が満ち満ちていました。このときは会員のたゆまない努力があり、東北復興支援なども奏功し、2018（平成30）年度に待望の収入1億円・会員数200名超を達成しました。

しかし今、再び大きな災難に直面しています。感染拡大が続く新型コロナウイルスの脅威です。コロナ禍の影響を受け、2020（令和2）年度並びに2021（令和3）年度の収入は確かに大きく落ち込みました。

それでも、私たちが取り組む中小企業の販路開拓支援の拡がりには勢いを失っていません。現在、NPOクラブが業務を受託した都道府県は全国47カ所のうち、43カ所になりました。2度の大きな災難を乗り越え、引き続き中小企業の販路開拓に注力していきます。

凡例	受託
5	大
4	↓
3	↓
2	↓
1	小
	未

※マップの濃度は、受託の継続年数・事業の規模・事業の遂行に会員が費やした活動時間など、独自の累計で表示している。



記：NPOクラブ・山口 浩利

# 06 関係者の皆様とNPOクラブとの強い絆

Thanks! ~感謝

## 多くの素敵な出会いに感謝!

皆様に支えられて迎えた創立 20 周年。多くの方々との出会いによって、ここまで歩むことができました。これからもお互いに手を携え、世の中に貢献していきたい——。

改めて今、これまで関わってきた皆様に感謝の気持ちをこめて。

### 公的機関の皆様

#### 感謝! 1 NPO クラブの企業に寄り添った支援活動が、長いお付き合いの理由の一つ

関東経済産業局 地域経済部 地域経済課長 戸川 哲宏



関東経産局は1都10県を担当していますが、NPOクラブとのお付き合いは、貴クラブが設立された翌年の2003（平成15）年からになります。

そのときは地域経済部技術企画課に所属していましたが、地域新生コンソーシアム研究開発事業で専門家としてプロジェクトメンバーに事業化視点でのアドバイスをいただきました。

当時は研究開発というと、大学がプロジェクトの中心となっており、どうしても事業化視点での事業運営が難しい状況でした。ですので、実務経験豊富なNPOクラブにご相談させていただき、プロジェクトごとに設置された委員会の委嘱メンバーとして、山口さん、友常さん、菊地さん、小泉さん、下村さんをはじめ、貴クラブのメンバーの皆様から貴重なアドバイスをいただいたことを今でも覚えています。

その後、地域振興課に異動し、企業が集結する産業クラスター計画地域活性化事業では浜松地域企業の販路支援業務において、貴クラブが得意とする販路開拓支援に取り組んでもらいました。

先日、浜松企業とNPOクラブとの関係が継続していると伺いして、これもNPOクラブの皆様のごこれまでのご尽力の成果と感心しつつ、これからの更なるご活躍に期待しております。

2008（平成20）年には資源エネルギー環境課に異動になりましたが、環境調査などについては、帝国データバンクなどとも一緒に取り組みました。

最近では2018（平成30）年～2019（平成31・令和元）年にかけて、地域中核企業創出支援事業においてハンズオン型で域内企業2社の支援に取り組んでいただき、販路開拓を含む総合的な支援で相手企業からも喜んでいただけたことは、大変よかったですと思っています。

2018年に産業部製造産業課にて、戦略的基盤技術高度化支援事業（通称：サポイン事業）で実施企業への事業化調査業務などを行いました。そのとき助川さんをまとめ役として、関口さん、森本さんをはじめ、NPOクラブの皆様には企業への訪問ヒアリングを行っていただきました。ポイントを突いたコメントをいただき、ヒアリング企業からもアドバイスがとても参考になったと好評でした。

私は、役所の性格上2年ほどの間隔での異動が多く、一つの業務に集中できません。そうした中で、NPOクラブの皆様には企業に寄り添った支援活動を続けていただいております。本当に感謝しております。そのような結果が約20年にわたり、ずーっとお付き合いをさせていただいている理由の一つなのかもしれません。

#### 感謝! 2

#### NPOクラブの広範なネットワークと、専門知識による更なる協力に期待

公益財団法人みやぎ産業振興機構 理事 三浦 知彦



経営支援NPOクラブ様の創立20周年にあたり、謹んでお慶び申し上げます。これまでNPOクラブ様の運営、事業にご尽力された歴代役員並びに関係各位に對しまして、深く敬意を表する次第です。また、日頃より宮城県の中小企業支援に温かいご理解とご協力を賜り、深く御礼を申し上げます。

弊財団は、宮城県内の中小企業支援を目的とする公的支援機関ですが、NPOクラブ様には東日本大震災前の2010（平成22）年から販路開拓の分野でお力添えいただいております。特に震災からの復興においてはさまざまなご支援をいただき、今年で12年目になりました。

販路開拓は中小企業から支援を強く望まれる分野ですが、私どものような地方の公的支援機関だけでは支援できる範囲に限りがあります。特に首都圏への販路開拓の要望は多く、そこで力になっていただいたのがNPOクラブ様でした。NPOクラブ様にはさまざまな業界をカバーする幅広い人脈を活かした首都圏の大手企業等との引合せ（販路開拓）を数多く実施していただき、その成果は累計14億円にのぼる取引実績となって表れております。

また、NPOクラブ様にお力添えいただいたのは引合せ支援にとどまりません。

弊財団では、宮城県の次世代を担うことが期待される企業を認定し、2年間の集中支援を行う「ステージアッププロジェクト」を2020（令和2）年度からスタートしました。その認定第1号企業が自社開発した医療機器の新分野参入を支援するにあたり、課題となったのが、医療機器の開発・販売に際して不可欠な専門知識が支援企業にも弊財団にも不足していた点でした。

そこで、NPOクラブ様にご支援を仰ぎ、医療機器販売に関する豊富な知識と広範な業界ネットワークを有する会員の方に、専門家の視点から次世代企業の育成にご協力いただくこととなりました。その支援は、医療機器販売に関する法令や業界慣行に関する専門知識の教示から、医療機器販売に伴う社内体制の整備への助言、そして市場調査に至るまでと多岐にわたり、結果として支援企業は実質的な開発・販売活動ができるまでに体制を整えることができました。

従前からNPOクラブ様とは、「中小企業の販路開拓支援は製品の売り先紹介だけではなく、そこに至るまでの取り組みをトータルで支援すべき」という観点で議論させていただき、NPOクラブ様からもその点を重視したいというご意見を頂戴しておりましたので、今回の取り組みはその支援手法の代表例になったのではと考えております。

また、弊財団としても中小企業の販路開拓支援においては、製品の売り先への引合せだけではなく、そこに至る取り組みを、3つの段階的なステージ（市場投入・販売力向上・引合せ）を構えて支援する事業を2022（令和4）年度から開始しますので、200名を超える会員皆様の広範なネットワークと専門知識による更なるご協力を期待しております。

経営支援NPOクラブ様の益々のご隆盛をご祈念するとともに、引き続き地方活性化へのご支援をいただければありがたく思います。

**感謝! 3** **三井生命の提言を受け、中央会と全国中小企業の販路開拓を支援** ~全国中小企業団体中央会

2015（平成27）年に三井生命保険（現：大樹生命、以下生保社）からの提言を受け、NPOクラブは同社と関係が深い「全国及び各道府県の中小企業団体中央会（以下中央会）」の販路開拓を中心としたビジネス支援業務の取り組みを始め、2015年の初年度は全国中央会が東京ドームで開催する展示商談会への各種支援活動を行いました。

2017（平成29）年からは、生保社愛媛支社に紹介された愛媛県中央会がリーダーとなった、四国4県中央会が主催する本格的な展示商談会への支援活動が始まり、2017年11月に東京大手町の同生保社の大会議



▲展示商談会の様子

室を会場とした「四国4県中央会」の展示商談会では40社が出展、顧客企業招致60社、商

談支援件数120件の成果を得ることができ、その後3年間続きました。

2019（平成31・令和元）年には四国4県中央会の活動を側面した「南東北3県中央会」からも支援要請があり、11月、12月と相次いで同会議室で展示商談会が開催され、それぞれに大きな成果を得ることができました。

個別支援要請もあり、愛媛県中央会主催の「スマートものづくり応援隊」セミナー（2018<平成30>年・2019年、ともに各6カ月間）のセミナー講師受託や、徳島県中央会主催「実践的営業力強化」と銘打ったセミナー及び模擬商談会の支援も行いました。順調に活動を拡大してきましたが、コロナ禍の影響もあって現在は支援活動が中止のままです。

同生保社との関係がスタートしたのは、その後NPOクラブに入会した会員が現役時代の知人の紹介で所属していた岡山県産業振興財団との2015年から3年間の企業支援活動がきっかけでした。



記：NPOクラブ・實生 吉男

**感謝! 4** **四国STEPと佐賀県のトライアル発注** ~一般財団法人四国産業・技術振興センター/佐賀県

**●四国4県からの受託**

NPOクラブは2006（平成18）年に愛媛県庁から、四国自治体として中小企業の販路開拓支援の委託を初めて受けました。

その後、徳島県、香川県と続きましたが、この間に（一財）四国産業・技術振興センター（略称STEP ※1974<昭和49>年に四国4県の中小企業支援を標榜して設立された）からの受託が始まり、四国全域にまたがる企業と同時にお付き合いができる幸運に恵まれました。以来継続して受託し、現在9年目を迎えることに感謝いたします。

この事業はSTEP独自の都市圏への進出を図るマッチング事業と、四国経産局の公募案件を含む受託事業のNPOクラブへの部分再委託であり、知財技術マッチングや新素材・高機能食品の販路開拓等を担当しました。NPOクラブが関西グループを発足したことに鑑み、従来は首都圏としていた呼称も、関西圏を加えた総称として都市圏という表現になっています。

また、（独）中小企業基盤整備機構（略称：中小機構）四国本部による四国4県の企業の展示会が、東京に設定した会場で3年継続して開催され、NPOクラブは発注企業の会場への招致をお手伝いして好評を得たこともあります。

**●佐賀県のトライアル発注制度**

佐賀県では2003（平成15）年より、県内中小企業が独自に開発した優れた製品について、県の機関が試験的（トライアル）に発注し、評価したうえで推奨する制度を全国で先駆けて取り組んでいました。

その10年目の2013（平成25）年3月に新たな展開として、本トライアル推奨製品から選定した製品の首都圏での販路開拓を支援する「トライアル倶楽部首都圏商談会の開催に係る業務」がスタートしました。その企画提案を含む競争入札が行われ、NPOクラブはこれに応募し採用されました。以来、10年間連続で採択されることになりました。

また佐賀県では、トライアル推奨製品に限定しない一般応募企業から選定した製品の県外への販路開拓を支援する「取引拡大支援」事業も2016（平成28）年にスタートし、NPOクラブはこれも6年間継続して取り組みました。

県のトライアル制度は2021（令和3）年度にリニューアルされて、一般枠にDX（Digital Transformation）枠を加えた2制度になりました。同時にNPOクラブが受託してきたトライアル発注後の首都圏販路開拓支援制度は、残念ながら当面見合わせと



記：NPOクラブ・山口 浩利

**特定支援会員の皆様**

**感謝! 5** **あらゆる悩みを気軽に相談できる強い絆が構築できたことに感謝!**

雪ヶ谷精密工業株式会社 代表取締役社長 菊田 芳政  
(宮城県気仙沼市)



今までの支援活動を通じてNPOクラブ様との強い絆ができ、あらゆる経営上の悩みを気軽に相談できる関係構築ができて感謝しています。

かつて、別の省庁からのプロジェクトで外部コンサルを受けた企業が、上手くいかなかったとの噂を聞いていたので、当初は支援を受けることに心配もありました。しかし、現在はすべての経営情報をNPOクラブ様と共有し、安心して相談事を電話やネットで実施する関係になっています。東北経産局支援終了後もNPOクラブ様の特定支援会員に加入し、継続して支援をいただいております。

20周年おめでとうございます。

**津波被害からの再出発を期す 気仙沼医療機器メーカーの企業力アップを支援** ~雪ヶ谷精密工業株式会社

雪ヶ谷精密工業（以下YSC）は、2011（平成23）年3月の東日本大震災時に津波被害で会社社屋が全壊する被害を受け、それから2年半後に現在地に新工場を新設移転し、再出発した宮城県気仙沼市の医療機器製造企業です。主製造品は国内トップシェアを誇る耳鼻科用治療椅子のOEM生産で、その他の医療機器も社内で一貫生産しています。

NPOクラブとの関係は、2012（平成24）年に



▲雪ヶ谷精密工業の社屋（工場）

仙台市で我々が実施した復興支援活動にYSCが参加されたのがきっかけです。その後、経産省中小企業支援事業、東北経産局支援事業（以上2件、NPOクラブ受託）と、4年間連続して同社の企業力強化活動を支援しました。

我々がYSCの支援時に意識したのは、新工場の完成と同時に創業社長が逝去されて、今後の経営は急遽後継者になった経験の浅い菊田芳政社長（当時専務）と、経験豊富な社員のチームワーク・成長にかかっているということでした。

このために伴走型での後継経営者育成指導支援として、事業計画づくりから企業運営重要活動項目設定、生産性向上を目指した小集団活動、原価低減活動、部門管理体制構築等の社内活動支援とともに、売上拡大を目指した企業紹介も実施してきました。



記：NPOクラブ・関口 寛

感謝!  
6

## NPO クラブの熱心な指導により モノづくりの基盤を強化

株式会社田島軽金属 代表取締役社長 田島 正明  
(埼玉県羽生市)



この度は、経営支援 NPO クラブが 20 周年を迎えられ、誠にありがとうございます。弊社は埼玉県羽生市で砂型アルミ鋳物を製造する会社ですが、NPO クラブ 設立後間もない 2003 (平成 15) 年に足利銀行様のご紹介で特定支援会員に入会させていただき、はや 19 年になります。この間多くのメンバー様との交流を通じて、多くのご支援・ご指導・ご協力を賜りましたことを、改めて感謝申し上げます次第です。

振り返りますと、2008(平成 20)年に故友常様のご紹介で東芝機械様の内覧会に参加させていただき、2009(平成 21)年に大型ターニングセンターと大型マシニングセンターを導入し、一貫生産体制のきっかけとなりました。

また、2010(平成 22)年には戸谷様に中国市場調査の支援を受け、当時の中国市場のダイナミズムとポテンシャルを知るよい機会を得ることができました。

また、2009年9月から1年間にわたり「モノづくり」の総合的なご指導・ご支援を賜り、生産性向上や社員の多能工化等、毎月ご来訪くださいました金子様、長谷川様、森本様の熱心なご指導により相応の成果を上げると同時に、その後のモノづくりの基盤強化につなげることができました。この場をお借りし、心から感謝を申し上げます次第です。本当に有難うございます。

また、2017(平成 29)年～2018(平成 30)年の2年間にわたり、関東経産局認可の「地域中核企業創出支援事業」では弊社グループ企業も含め、貴クラブの皆様のご尽力のもと、新規販路開拓などのご支援を賜り、とりわけ 2018 年の彩の国スーパーアリーナでの展示会では、ブースのご提供から自動車・医療・建機など幅広い企業様を招致いただき、弊社の存在をお伝えする貴重な機会となりました。改めまして富田様、菊地様、柴田様、岩田様を始め、関わってくださった皆様の真摯なご尽力に心から感謝申し上げます。

直近では、今年の5月にインテック大阪で開催の「高機能金属展：メタルジャパン」では、NPO クラブ会員企業である高知機型工業様(高知県)、ヤナギモト様(大阪府高石市)、弊社グループ企業の松田木型製作所様(埼玉県羽生市)との4社で共同出展ができましたのも、貴クラブが取り持つご縁であり、開催期間中にはNPO クラブ関西グループの皆さんの企業招致活動と併せて、本当に感謝に堪えません。今後、さらに素材材関連企業との連携の輪を広げ、相互の事業発展に邁進する所存です。

自助努力はもちろんのこと、皆様方の厳しいご指導を期待申し上げますとともに、弊社の一層の飛躍をお誓いし、経営支援 NPO クラブの益々のご発展をご祈念申し上げ、感謝の言葉とさせていただきます。誠にありがとうございます。



感謝!  
7

## 自社製品の全国展開実現、 第一に挙げられるのが NPO クラブの支援

株式会社田中電気研究所 代表取締役社長 田中 敏文  
(東京都世田谷区)



当社のような小さな企業が、自社製品である煙突からの煤塵連続測定器「ダスト濃度計」の全国展開に至った経緯として、まず第一に挙げられるのが経営支援 NPO クラブの支援です。

2005(平成 17)年の頃、当社烏山工場がある栃木県那須烏山商工会の庭で開催された製品展示会にダスト濃度計を出展したところ、「この機器は世界展開できるのではないだろうか」との意見を栃木県産業振興センターの方からいただき、その結果、販路開拓事業として貴クラブを紹介され、3年間の支援を受けました。

この支援期間中に貴クラブ担当者の故友常さんから、「製品を販売するのは文科系の人間なので、理系の人間の書いた説明資料では全然わからない」との厳しい指導をいただきました。この意見を受けて、誰にでもわかる資料を作ることから始まり、当時環境データ改ざんで社会問題化していた製鉄所へのアポを取っていただいたことで、10台以上のダスト濃度計納入につながりました。

この成功体験をもとに、次なる支援先として東京都中小企業振興公社のニューマーケット開拓支援事業を紹介していただき、マッチングした国内大手機械商社の販売網を使って、現在、全国の電力会社や製鉄所への納入につながっています。

その後も JETRO の輸出有望案件発掘支援事業によって、タイ、ベトナムへの輸出につながりました。このように、当社の事例では販路開拓において信頼関係をもとにした人と人とのつながりによる紹介がほとんどであり、貴クラブの方々の人脈が非常に有効であることを改めて思う次第です。

この度、NPO クラブ発足 20 周年という節目にあたり、中小企業に対する皆様からの益々のご支援をお願いすると同時に、皆様方の末永いご健康を願っております。

創立 20 周年記念、誠にありがとうございます。



田島軽金属・田中電気研究所担当：NPO クラブ・富田 駿



招致企業先の皆様

感謝!  
8

これからも更なる協力関係を

～株式会社 JALUX フーズ・ビバレッジ事業本部  
事業企画室長 永井 秀和 様

永井秀和氏は JALUX 入社以来、食品部門で活動され、初めてお会いした 2012（平成 24）年当時、羽田空港で販売する弁当を製造する国内関連会社の日本エアポートデリカで社長を務められていました。NPO クラブは同社に対し、折箱製造会社を紹介したのをはじめ、生ハムの紹介なども行い、一方、永井氏には利用者の立場から有益なコメントを多くいただきました。

その後、JALUX の食品部門に戻られてからも、みやぎ産業振興機構や佐賀県などの案件について、マッチング先として対応をいただくとともに、食品以外の分野でも社内の担当者を紹介いただきました。

また、永井氏は輸出事業推進のため、タイ・バンコクに農産品等の生鮮食品を扱う市場を開設する業務に携わった経験があることから、NPO クラブで「農産物・食品の輸出対策研究会」を立ち上げる際、我々は彼のもとを訪問し、種々の情報やアドバイスをいただきました。今後、NPO クラブにおける地域物産の輸出支援にあたり、更なる協力関係を期待したいと思います。

永井氏は 2022（令和 4）年 3 月現在、上海に勤務されていますが、これまで食品のマッチングに限らず、支援先の社内調整の面でも大変お世話になり、心から感謝しています。3 度目の上海勤務、ご活躍を願うばかりです。



記：NPO クラブ・吉田 仁

感謝!  
9

JA 全農各都との協力関係構築に期待

～全国農業協働組合連合会 暮らし支援事業部  
店舗事業課長 坂口 拓也 様

JA 全農とは、機構改革前の生活部の時代から、みやぎ産業振興機構や佐賀県などの案件、スーパーマーケット（SM）トレードショーや FOOD EX JAPAN 等のイベントへ招致先として協力をいただいています。

現窓口の坂口拓也課長は、暮らし支援事業部でも店舗事業関係を中心に担当されてきており、全国 A コープ協同機構の事務局長を兼務されています。みやぎ産業振興機構などの案件や産業交流展、しんくみ食のビジネスマッチング等のオンライン展示会、SM トレードショー、FOOD EX JAPAN への招致先として協力をいただいています。

また、全国 A コープ協同機構に加盟しているエーコープ広域会社（東日本・近畿・西日本・九州）や JA 全農グループ会社の全国農協食品に対して、

NPO クラブの案件に対する協力依頼もお願いしています。

また、全農取引先に対する業務用原料や食品機械・設備の紹介、食品関係以外にも、省エネ設備や資材等の取り扱いについても協力をいただいている、引き続き様々な案件や展示会等への招致について、協力をお願いしたいと思っています。

エネルギー、食糧、飼料および肥料原料価格の高騰等により、国内農業を取り巻く環境は厳しさを増すばかりですが、暮らし支援事業部以外にも全農各都（米穀部、フードマーケット事業部、営業開発部、耕種資材部、総合エネルギー部、輸出対策部）の協力を得る案件は多いと思われるので、引き続き JA 全農との協力関係の継続に努めたいと思います。



記：NPO クラブ・酒井 基次

復興支援先の皆様

感謝!  
10

つながりを深めたイベント、  
今後も支援・知恵を拝借したい

株式会社元気アップつちゆ 元代表取締役社長 加藤 勝一  
(福島県福島市)



元気アップつちゆは 2011（平成 23）年に発生した東日本大震災と、直後に発生した東京電力福島原子力発電所の事故といった未曾有の大災害に直面した土湯温泉町の復興と再生を願い、2012（平成 24）年 10 月、地元の団体が出資して設立した『土湯温泉町復興再生協議会』を通じて立ち上げられました。東日本大震災で被った『ピンチ』こそ『最大のチャンス』と捉えて、土湯温泉の復興に取り掛かっています。

2015（平成 27）年 4 月には、日本で初めてバイナリー発電と小水力発電を同時に立ち上げて話題になり、見学者や観光で訪れる人々も増えてきました。毎年、NPO クラブの皆さんにも訪れていただき、街づくりのポイントなどのアドバイスをもらっています。

■経営支援 NPO クラブとつながりを深めたイベント

2015 年 11 月 5 日、「再生可能エネルギーフォーラム・土湯温泉 2015」を福島市の文化施設・福島テルサにて開催し、全国から 314 人もの参加者が集まりました。翌日にはバスを 10 台チャーターして、希望者を土湯温泉の見学にご案内。NPO の皆さんの実行力～老人パワー～にはビックリしました。

今後も NPO の皆さんに、地熱発電、農業開発、観光へのご支援・お知恵を拝借したいと思っています。

■温泉だけでは生き残れない

もともと土湯温泉には 16 軒の旅館がありましたが、震災で 5 軒が休業。その後、2 軒が復活して、現在は 15 軒が営業中です。震災前は年間 40 万人が訪れていましたが、今はコロナの影響もあり 30 万人ほどに減少しています。

そこで、バイナリー発電所から排出される冷却水の有効活用を図るため、全国的にも珍しいエビの養殖事業も始めました。そのエビの釣堀を併設したコミュニティカフェでは、釣り上げたオニテナガエビをお客さん自身にその場で焼いてもらい、食べていただいています。

ほかにも「おららの酒」の名で、どぶろく&シードルも醸造しています。

■再生可能エネルギー事業

地域の固有の資源でもある温泉を活用し、全国的にも数少ない成功事例として 400kW のバイナリー発電所が稼働し、さらには砂防堰堤の落差を利用した 140kW の小水力発電所も稼働させています。

両方を兼ね備えているのは土湯のみで、全国から毎月 200 人が視察に訪れ、年間では約 2500 人を受け入れています。



▲エビの養殖事業



▲バイナリー発電

<取材ノート>

「どこからそのパワーが出てくるのですか？」という質問に、  
「使命感ですかね」  
と応えてくれた加藤さん。まだまだ再生への情熱は続いています。

記：NPO クラブ 広報チーム

NPO クラブ会員がお世話になりました

NPO インタビュー

感謝!  
11

NPO クラブ 憩いの場  
居酒屋「助六」の女将さんを訪ねて

NPO クラブでは各グループの定例会後、必ずといっていいほどこちら、神田「助六」で“飲みニケーション”が行われていました。残念ながら同店は2021（令和3）年10月に閉店しましたが、NPO クラブよりさらに長い、25年前（平成8年6月）から営業されていたとのこと。元女将の酒井由美子さんにお話を伺いました。



酒井 由美子さん

\* 開店当時のことを教えてください

当時、主人が28歳で私が29歳。長女が2歳、次女がお腹にいる時だったので大変でした。

「助六」という店名の由来は、先代の父が1983（昭和58）年に神田西口通りで商っていた回転寿司「助六」（店舗はパチンコ屋さんの近くで今は餃子屋さん）が由来です。先代は助六のオープンに合わせて地元の草加に移り、蕎麦屋を始めました。

\* 印象深い出来事を教えてください

やはり、2011（平成23）年3月11日の東日本大震災でしょうか。

實生さんが出先からの帰りで、東京駅から歩いてお越しになりました。その後、富長さんなど10人くらいみえたでしょうか。電気・ガス・水道は大丈夫で、電話だけつながりにくい状態だったので、通常営業をしていました。その日は、全農さんから200個のおにぎりの注文などをいただき、とても慌ただしくしていたのを覚えています。

山口さんと田辺さんのお二人は小上がりで一晩を過ごし、山口さんがいびきをかきながら気持ちよく、ぐっすり寝ていらしたのをよく覚えています（笑）。

\* NPO クラブのメンバーの印象など教えてください

皆さん、本当にお元気で。30人くらいでぎゅうぎゅうに座って、大きな声でにぎやかに過ごされました。早い時間にいらして、夕方にはお開きになるので有難くもありました。

靴の取り違えが多発していました（笑）。

お通しはいつもお任せで用意していましたが、ほかのお店のように小鉢でやっていると、すぐ食べ終わるので、あえて焼き魚や煮魚を出し、お刺身、さつま揚げ、ほうれん草ベーコンなどを喜んで注文していただきました。

記：NPO クラブ・広報チーム



<取材ノート>

NPO クラブの憩いの場「助六」も、ご両親（先代ご夫婦）の介護のこともあって2021年10月、ファンに惜しまれつつ閉店されました。

長い間、本当に有難うございました。

記：NPO クラブ 広報チーム

経営支援 NPO クラブ 賛助会員&特定支援会員リスト

この20年間でお世話になった賛助会員および特定支援会員の皆様、  
心より感謝申し上げます。

（入会年度順）

■ 賛助会員 67社

(株)シンケン、(株)長太、三陽商工(株)、(株)大巨、電化興業(株)、三井物産プラスチック関西(株)、(財)新日本検定協会、鹿沼商工会議所、(株)グルメン、上村 次郎、ロックペイント(株)、エア・ウォーター(株)、信越化学工業(株)、浮間合成(株)、(株)向洋技研、昭和アステック(株)、大光産業(株)、(株)アスノ、(株)インテリジェンス、ソフトバンク・インベストメント(株)、日本興亜損害保険(株)、テクノス(株)、鐘淵化学工業(株)、物産パッケージサービス(株)、(株)カネカ、昭和飛行機工業(株)、(株)パン・アキモト、(株)ディシエル、(有)今井冷凍機工作所、日東化工(株)、小原木材(株)、(株)エムディケー、(有)グリーンラボラトリー、(株)リツビ、(株)大東スピニング、(財法)にいがた産業創造機構、桑名商事(株)、丸信金属工業(株)、トーヨーポリマー(株)、クイック・ロック・ジャパン(株)、(有)畔上シール印刷、(財法)川崎市産業振興財団、(株)メディテック、(有)小林製作所、(有)南那須鶏卵、(株)ダイサン、(株)大都技研、(株)トヨックス、(株)モノベエンジニアリング、三生興産、コトヒラ工業(株)、(株)田中電気研究所、(株)川崎製作所、(株)浦和フットボール通信社、(株)田島軽金属、A.T.カーニー(株)、UAC-NET、(株)スペースクリエイション、ミナミ(株)、(株)SNT、(株)E&CS、(株)NCネットワーク、物林(株)、三井生命保険(株)、(株)ヨコオ、(株)ティムズ販売、(株)プランテック

■ 特定支援会員 77社

(株)NCネットワーク、(株)シーアイシー研究所、(株)スペース・ジー・ネット・コンサルティング、(株)スペースクリエーション、日東通商(株)、日本省力機械(株)、東邦工業(株)、シンフジ協同組合 UAC-NET、(株)日幸、(株)田島軽金属、(株)トヨックス、篠田重機(株)、メンターフーズ(株)、(株)レヨン工業、(株)東西、浜松ヒートテック(株)、北陸軽金属工業(株)、(株)野上技研、(株)レイテック、(株)西野精器製作所、(有)港メッキ工業所、(株)リネス、イー・ジー・システム(株)、アシザワ・ファインテック(株)、(株)アールテック、(株)ニシキ金属、(株)ウェザーコック、富士工業(株)、ティーネットジャパン(株)、フレクストロニクス・インターナショナル(株)、(株)クライム・ワークス、(有)渡辺鋳造所、(株)YAMABISHI、(株)シオン、三陽商工(株)、(株)情報工場、(資)内ヶ崎酒店、(株)トップシステムズ、(株)石川工業、アロン化成(株)、(株)ツガワ、(一社)グローバルM&Aアドバイザー協会、伊藤電機(株)、(株)ミューチャル・エイド・セオリー、(株)兼廣、(株)日進産業、新星商事(株)、ナノミストテクノロジーズ(株)、(株)白崎製作所、(株)ユーザーベース、大阪ガス(株)イノベーション推進部、(株)荏原製作所、シナジーテック(株)、匠ソリューションズ(株)、(株)フジコー、朝日音響(株)、高知機型工業(株)、マイクロコントロールシステムズ(株)、中道鉄工(株)、ダイヤ工業(株)、フィンガルリンク(株)、(株)ジェ・スク、雪ヶ谷精密工業(株)、(株)山本金属製作所、(有)野火止製作所、(株)田中電気研究所、合資会社GS工事、ダイコク(株)、(有)ワインディング福島、(株)ヤナギモト、(株)ノーベル機械工業、クイック・ロック・ジャパン(株)、(株)システムブレイン、(株)奥田製作所、(株)パトライト、和光精機(株)、三研精機(株)

# 07 これからの NPO クラブ

Future ~未来

## 更なる発展に向けて

貧困、人権、気候変動、生物多様性など世界中のさまざまな課題解決に向け、2015（平成 27）年の国連総会で採択された「持続可能な開発目標」（SDGs）。新型コロナウイルスによるサプライチェーンの混乱で、世界規模でニーズが加速する「デジタルトランスフォーメーション」（DX）——。新たな時代の潮流が、従来の価値観や生活様式を一変しようとしています。

激変する社会・経済環境に柔軟に対応するべく、NPO クラブでは次の 10 年を見据えて力強くその歩を進めています。

### NPOクラブのDX化への取り組み

当 NPO クラブが創立した 20 年前を振り返ってみると、当時はデジタル技術が主役になり世の中に新たな変化をもたらした頃でした。情報通信業界ではデジタル放送の開始、高速デジタル通信網の整備拡大によるインターネットが普及し始めたこと、企業ではいわゆる IT 革命と称する事務機械化合理化が大手企業を中心に急速に拡がり始めたことなどが代表例で挙げられます。

その後 10 年の間に IoT、AI 等の技術革新が進み、これらを応用した新たな事業革新の波、いわゆる DX 化の波が大手企業中心に始まり現在も進行中です。

最近では我々の生活の場においてもスマートフォンが必需品となり、「デジタル庁」の設置による行政のデジタル化推進、テレワークの定着、キャッシュレス化、店舗無人化、ロボットやドローンによる省人化サービス等、便利で価値ある新サービス出現の枚挙にいとまなく、10 年前の予測以上の社会の変革がデジタルによりもたらされつつあるというのが誰しもの実感です。

さらにこれまでに増えてきたデジタル化のテーマ以外に、いわゆる仮想空間技術（メタバース等）などによる新世界空間の提案が新たな進化として出てきており、デジタルゲームに慣れた若い世代でなくては思いつかない世界が現実のものになると予測されます。

このような社会全体のデジタル化の流れは当然、当 NPO クラブの支援する中小企業の皆様にとっても他人事でないことは明白であり、将来へ事業を継続し DX 化の時代に生き残るために何をすべきか、製品の作り方、売り方から事業運営まですべての経営活動において真剣に考えなければならない時期にきていると言えます。

当クラブではすでに「デジタルイノベーション支援チーム（DIT）」を立上げ、下記のような活動を開始しています。

- ① 中小企業の皆様のデジタル化へどう対処すべきかの研究。
- ② 世の中のデジタル化、DX 化に関する情報収集。
- ③ 個々の中小企業様へのデジタル化支援（アドバイス）活動。
- ④ 会員全員のデジタル化啓蒙活動。

「デジタルリテラシー講座」を設け、クラブ全体での支援ポテンシャルの向上を目指す。

これからの進化するデジタル時代・社会に適した支援を常に中小企業の皆様へお届けできるよう、当クラブは準備し推進してまいります。



記：NPO クラブ・甲斐 実

### NPOクラブのSDGsへの取り組み

#### ◆時代の背景

当 NPO クラブの創立 20 周年となる今年 2022（令和 4）年は、ウイズコロナの面は残るものの、アフターコロナの次の 10 年を見通して更なる進化を目指すスタートの年となります。具体的には社会の様々な問題を、いかに自主的に、継続的に解決し続けていけるか、という SDGs の観点が問われる時代です。

#### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



この世界的な潮流に対しては、当 NPO クラブはすでに発足当初からその方向で活動を進めてきていますが、今後はさらにその活動を社会の変化に合わせて発展させていくことが大切になってきています。今の時代は下記のような、世界を基本的に変革させるような大きな動きがいくつも重なり、人類史上かつてない大変な時代に我々は生きているからです。

- ・第 4 次産業革命の真ただ中（AI、IoT、メタバース）
- ・100 年に一度のパンデミック（コロナ禍拡大）
- ・地球環境の崩壊（温暖化、産業廃棄物）
- ・民主主義の弱体化（格差の拡大、専制国家の拡大）等

そして、その影響は我々が支援している中小企業や次世代を担う若者達にも、大きな影を落としてくる時代になっているのです。

#### ◆これからの活動に向けて

このような激変の時代に対応していく世界共通の行動目標が SDGs です。

社会を対象（お客様）として活動している当 NPO クラブとしても当然、この大きな変革に対応した活動を進めていくことが必要であり、その活動の基本は「支援先よし、社会よし、当 NPO クラブよし」の「三方よし」です。これは日本では昔から実践されている考え方ですが、SDGs の考え方そのものでもあります。この考えに沿って、これから特に我々が注力していく活動のポイントは下の通りです。

- ① 支援先企業のサービスや製品を SDGs の観点から見直し、社会の変化に対応した新しい付加価値を付ける支援をするとともに、その活動を対外的にアピールする事も積極的に支援する。
- ② 当 NPO クラブ自身の活動を社会の目（SDGs の観点）から見直し、対外的アピールを強化して広く社会に知ってもらう。
- ③ 上記の結果として、支援先に喜ばれ、当 NPO クラブにも豊かな人材が集まり、外部団体とのコラボが広がり、さらに活力のある社会貢献活動になることを目指す。

加えて、これからの活動を効果的に進めていくために参考となるのが、SDGs 活動を進める時の行動の基本：全員参加で、一つの立場からだけ物事を見るのではなく、変わることを恐れず、できることから始めるです。これは当 NPO クラブの次の 10 年に向けた活動にとっても、大切な活動の基本になるものだと思います。これまでの 20 年間で築いてきた輝かしい活動の歴史を踏まえながら、世界共通の行動目標 SDGs をうまく活用して、これからの 10 年をさらに輝かしいものにしていきましょう。



記：NPO クラブ・東郷 修

## 中期活動方針（3カ年重点課題）

当 NPO クラブの活動については、2007（平成 19）年から 3 年ごとに中期活動方針を策定しており、基本的にはそれに沿って諸活動を行っています。

2021～2023（令和 3～5）年度中期活動方針の策定にあたっては、実績の分析と評価に加えて、当 NPO クラブが 10 年後も安定して存続のために指向すべき課題として抽出された事項（後述）を参考に、コロナ禍の影響を含めて社会・経済環境及び技術環境の大きな変化が予測される中で、社会ニーズに合わせた柔軟な対応ができる組織活動の展開を目指して策定しました。

基本方針は、A. 中小企業への経営支援活動（収益活動）、B. 社会貢献活動（非収益活動）、C. 運営体制の整備・充実——とし、それぞれに重点課題を設けて、課題達成に向けた諸活動を行っています。

中小企業への経営支援活動については、当 NPO クラブの特長を活かし、中小企業の事業強化を念頭に置いた販路開拓支援を主に行うものとし、①新分野への進出、新技術の事業化支援、事業戦略の策定支援、ものづくり改善支援、デジタル技術の利活用支援等の多角的経営支援活動の強化、②外部環境の変化に対応するため、官公庁・地方自治体を中心とする各地域の情報収集力を高め、中小企業の更なる発展につながる支援案件の発掘、③特定支援会員・一般支援契約企業への取り組み強化、④地域密着活動の推進等が挙げられます。

非収益の社会貢献活動については、①講演会、教育機関への講師派遣等を通じた次世代人材育成支援活動の強化、②有望中小企業の発掘と総合的支援、③自然大災害復興支援活動、④各種研究会を設置し自己研鑽を行い、中小企業のニーズへの対応力アップ、⑤若者や女性が活躍できる環境確保の支援、⑥中小企業の SDGs 活用支援等です。

運営体制については、会員（正会員、賛助会員、特定支援会員）の増強、寄付金募集活動の推進のほか、内部的な課題が中心ですが、組織の活性化、支援活動に直結するデジタル環境の整備、データベース構築・利活用等を重点課題として取り組んでいます。2021 年度で収束（終了）した重点課題もいくつかあります。

中期活動方針の重点課題は、現状と将来を踏まえた上で毎年見直しを行い、当 NPO クラブの今後の諸活動の指針として、一つひとつ課題達成に向けての努力を続けてまいりますので、皆様には引き続きのご指導・ご協力をお願い申し上げます。



記：NPO クラブ理事長・助川 英治



▲ 2022 年理事・監事のメンバー

## 10 年後の NPO クラブを想う

～経営支援 NPO クラブが 10 年後に存在するために、今何を考え、何を準備すべきか！～

2019（令和元）年 5 月、理事会への課題の提言に始まり、7 月に理事及び会員各人が想う自由な意見を発表しあいました。これまでの NPO の実績に基づく自己分析から何ができるか、何を期待されているか、中小企業のニーズは何か、さらには日本社会が抱える課題解決への取り組み——等々と、幅広く提案が並びました。議論の展開は、グループごとに適宜複数のタスクチームができて、＜10 回前後の討論＞→＜その報告会＞を経て、＜タスクチームは自由意思で計画を立てて、実行へ移すことを可＞となりました。

2020（令和 2）年 3 月に新型コロナは公式にパンデミックとして確認されましたが、2 年半を超えても鎮静化していません。このポストコロナ対策に関しては未知の部分も多々あり、タスクチームの討議の外でもありましたが、時機に応じて柔軟な知恵と工夫が今後も要求されます。



記：4 代目理事長・山口 浩利

### NPO クラブの理念

- ボランティア精神 ● 社会貢献活動 ● 生きがいと自己活性化
- ＜シニアが活動する場づくり＞と＜次世代育成のお手伝い＞

#### これまでの主たる活動

- ・ 中小企業経営支援
- 販路開拓支援・事業計画支援
- 経営課題解決相談
- 調査、講演会
- ・ 次世代育成支援 各分野
- ・ 各種研究会

#### タスクチームで討議を重ねた

- ・ 実績の整理と分析
- ・ NPO 自身の SWOT 分析
- ・ ポストコロナの中小企業の課題
- ・ 存続するための要件は何か
- ・ NPO 活動の理想とニーズの変化
- ・ 会員の高齢化と新会員
- ・ 会員の多様化（年齢・分野）
- ・ CN（カーボンニュートラル）への取り組み（脱炭素化）

#### 日本の社会が抱える課題

- ・ 少子高齢化、介護 / 保険負担増
- ・ 人口の集中と地域の過疎化
- ・ 自然大災害と防災対策
- ・ 環境問題と CO<sub>2</sub>問題
- ・ 農林水産高の激減と低自給率
- ・ ポストコロナの産業界不透明
- ・ 中小企業の DX 化と生産性向上策
- ・ 日本の労働生産性の低迷

グループ名	タスクチーム	NPO クラブが取り組むべき課題・目標・方向性の検討
<b>Aグループ</b> (農林水産・加工食品流通)	①農業チーム	・ 食料品の自給率向上と輸出の進行 ・ SDGs の目標設定と実施
<b>Bグループ</b> (化学・素材・環境)	①化学・素材チーム ②環境チーム	①中小企業の支援分野の拡大と人材確保 ②中小企業の環境分野への進出・事業拡大に寄与
<b>HCグループ</b> (健康・医療・介護・福祉)	①スタートアップからの 発足に戻って考える	①まずはグループの基礎体制づくりをして、次の段階で 挙げた課題を絞り込んで解決をはかっていきたい。
<b>Cグループ</b> (機械電機系モノづくり)	① 技術 ② 生産性 ③ ネットワーク	①優れた技術を開発し開発～事業化まで支援 ②中小企業の生産効率・変化対応性の向上を支援 ③異業種の優良中小企業のネットワークの構築支援
<b>Eグループ</b> (IT、ソフト全般その他分野)	①DIT ②サービス業対象 ③支援方法の再検討	①について、まず NPO クラブ会員の ICT へのポテン シャルアップを狙い中小企業の補充・補足点をリサ ーチしてコーチングをはかる
<b>関西グループ</b> (全分野を対象に関西を中心に以西へ)	支部としてオールラウンド プレイヤーを指向	グループの要員増(目標・倍増の50名)をはかり活動域 を関西中心から西日本へと拡大し、かつ分野も拡げて 全域を対象としたい。
<b>次世代育成支援グループ</b>	①学校・教育機関、②企業の人づくり、③地域コミュニティ向け——と分けて、それぞれの チームがもつ強みや特徴を織り込みながら、実績の継続を含めて、新たな事例を学び、NPO の 人材の活用をはかる。(次世代の人材育成支援に特化した非収益社会貢献事業として積極的に展開)	

## NPOクラブの刊行物

経営支援 NPO クラブでは、永年にわたって培ってきた経験を基に、次世代の若者や中小企業の方々を対象に、ビジネス語録やノウハウハンドブックを作成してきました。これからの若者や、中小企業の経営者・社員の皆様がこれを少しでも参考にしていただけたら幸いです。

これからのあなたに贈るビジネス語録  
(2009年3月刊)

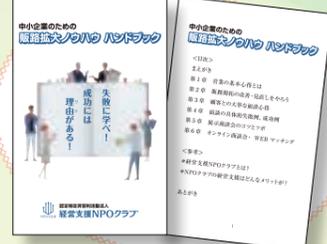


▲上の2冊は「長野県テクノ財団浅間テクノ地域センター」からの依頼により刊行しました。

若い君たちに贈るビジネス処世訓と心得  
～諦めない心、頑張り日本のものづくり～  
(2012年3月刊)



中小企業のための販路拡大ノウハウハンドブック  
～失敗に学べ！成功には理由がある！～  
(2021年2月刊)



▲「北海道中小企業団体中央会」からの依頼により刊行しました。

## NPOクラブの情報発信

経営支援 NPO クラブではホームページ (HP)、SNS、プレスリリース、リーフレット等を通じて、さまざまな情報提供をしています。ぜひ、ご覧ください。

< NPO クラブ HP サイドバーメニュー >

- ① 20周年記念事業
- ② 経営支援NPOクラブ Facebook 公開グループ
- ③ 経営支援NPOクラブ 公式チャンネル
- ④ メルマガ通信 登録・停止手続き
- ⑤ ニュースレター
- ⑥ 国内ポータルサイトのご案内

①……今回の20周年を機会に、2022年10月5日の記念事業の概要・「20年の歩み」や「NPOクラブのクラブの活動」を紹介しています。

②……Facebookのコミュニティの場として、現在約270人超の方々に情報発信しています。会員以外の方も自由に参加できます。

③……これからは動画の時代ということで、遅ればせながら数年前から総会やアトラクション、展示商談会や次世代育成支援のイベントなどをYoutubeで紹介しています。

④……年に4回(新年号・春号・夏号・秋号)、NPOクラブの活動のトピックスや展示・商談会のイベントを案内しています。現在2,800人超(外部2,600人、会員220人)の方々に配信しています。

⑤……年に1回、総会前にNPOクラブの活動(地域案件やイベント、各グループや研究会の活動実績)を報告しています。

⑥……「自社のHPがない」「製品・商品を販売するHPがない」という中小企業の皆様のために、NPOクラブのポータルサイトを活用して会社紹介や製品・商品の告知のお手伝いをしています。海外への商品紹介もしています。

< NPO クラブ 紹介リーフレット3点 >



## < 20周年記念事業準備委員会メンバー >

井料敏和、助川英治、永井隆二郎、多田泰夫、酒井基次、東郷 修、宇川晶子、荻田 浩、世良 正、山口浩利

## 編集後記

2021(令和3)年の4月に「20周年記念事業準備委員会」の立ち上げを行い、このイベントの大役を仰せつかりましたが、正直なところ本当に大変でした。

2012(平成24)年に「10周年記念事業」は実施されたのですが、その頃はまだ初めてでもあり、「記念誌」も発行していなかったためアルバムもなく、まず資料を集めたり整備するのに半年以上費やしました。

それでも、準備委員会の元理事長や元事務局長の経験豊富なベテランの方々のアドバイスをいただきながら、まず「どういう目的・テーマでやるか」「周年行事を何のためにやるか」からスタートしました。

周年事業は、当日の記念式典が単発で終わるのではなく、創業記念の年に向けて何をやるか、どのような年にしていくか、達成したい目的を考えるいい機会になりました。

新しいお客様や会員も増えていく中で、今回は「20年の歩み」として、「創業の頃」～「この20年の主な出来事」、そして「関係者の皆様との強い絆」をシナリオに描き、まさに「感謝！」を表現できたらいいかと思ひ、この記念誌にまとめてみました。

皆様に少しでも経営支援NPOクラブの20年の歴史と歩みをおわかりいただければ幸いです。最後に、寄稿いただきました皆様と編集にご協力いただきました方々に厚く御礼申し上げます。

2022年10月5日  
20周年記念事業準備委員会 実行委員長  
副理事長 井料敏和



## 経営支援 NPO クラブ 20周年記念誌 20年の歩み

発行日 2022年10月5日  
発行所 認定特定非営利活動法人 経営支援 NPO クラブ  
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-5-13 内神田TKビル1階  
TEL 03-5577-6785 FAX 03-5577-6786  
編集・制作 株式会社オフィスなかおか

# 20年の歩み

認定特定非営利活動法人 **経営支援NPOクラブ**

事務所	〒101-0047 東京都千代田区内神田1-5-13 内神田TKビル1階
電話	03-5577-6785
F A X	03-5577-6786
e-mail	jimu@ka-npom.com
U R L	<a href="https://www.ka-npo.com">https://www.ka-npo.com</a>



## 関西グループ事務所

事務所	〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-6-29 第3ユヤマビル5階A号室
電話	06-4805-6785
e-mail	kansai@ka-npom.com